■ 第1回JHLカップ ■

短期決戦に熱気あふれる戦いを展開

オリンピック・アジア予選に全力を注ぐということで、今年度は日本リーグの日程が大幅に変更され、それに変わる大会として第1回JHLカップが企画された。

この第1回JHLカップは、9月12日から15日まで、日本リーグの男女1・2部チーム（男子14、女子12）を東西のブロックに分け、総当りのリーグ戦で戦った。

こうした短期間に、日本リーグの1・2部チームがリーグ戦で戦うということは珍しく注目されたが、2部チームの健闘が目立ち。西ブロックの女子では、2部のブラザー工業が見事1部勢を押さえて栄冠を獲得した。

その他西ブロックの男子は湧永製薬、東ブロックの男子は大崎電気、女子も大崎電気と1部の上位勢が優勝を飾った。

オリンピック予選が8月に終ったため、全日本選手のエントリーが認められて、この大会の当初の狙いが少し変わってしまったが、しかし、こうした試みが若い選手たちに大いに刺激を与え、今後の日本リーグ、日本ハンドボール界の活発化につながってくれればうれしい。

〈東地区男子〉大崎電気が優勝

〔順位〕
①大崎電気（6勝）
②大同特殊鋼（5勝1敗）
③三陽商会（4勝2敗）
④三景（3勝3敗）
⑤トヨタ自動車（2勝4敗）
⑥トヨタ車体（1勝5敗）
⑦中村荷役（6敗）

大崎電気 29〔17―12、11―8〕19 三陽商会

〔三陽〕	得
宇田川	0
吉田	0
関	0
清家	2
田口	3
砂川	5
山口	1
浜田	6
安藤	0
河村	0
吉原	0
大塚	1
計	19
PT	(4)

GK・FP〔審・宮沢、小林〕

〔大崎〕	得
岡部	0
渡辺	0
矢内	0
松岡	3
大和田	6
武田	0
首藤	0
中田	8
山本	3
越迫	2
菅田	1
大野	0
山内	0
相馬	1
宮下	5
計	29
PT	(3)

大同特殊鋼 33〔17―16、6―8〕14 三景

〔三景〕	得
中村	0
北川	0
長橋	0
田畑	0
近藤	1
高橋	0
福永	2
郡司	1
田村	4
鈴木	5
山田	0
大谷	0
木原	0
小金山	1
浅賀	0
計	14
PT	(1)

GK・FP〔審・小山、青柳〕

〔大同〕	得
上村	0
秋吉	0
田中	3
内藤	1
高村	3
朝生	2
市川	2
中本	1
薄生	1
横浜	4
佐藤	0
中本	4
名取	9
植木	3
計	33
PT	(0)

トヨタ自動車 32〔14―18、10―12〕22 トヨタ車体

〔車体〕	得
宮田	0
村林	0
河村	0
長野	0
蓑田	2
君島	5
磯貝	0
藤長	5
松井	9
平野	0
吉続	0
中島	1
井上	0
久保山	0
計	22
PT	(1)

GK・FP〔審・江原、遠藤〕

〔自動車〕	得
中西	0
西井	0
香井	5
川田	7
相本	2
堀江	8
酒井	1
中西	2
宮崎	0
乙子	0
坂口	5
平野	0
白坂	0
松尾	2
田村	0
計	32
PT	(0)

三陽商会 26〔13―13、5―8〕13 中村荷役

〔中村〕	得
石井	0
高橋	0
末沢	0
三尾	1
塚田	2
北	2
福士	5
大木	2
下戸成	1
松本	0
酒井	0
坂戸	0
長原	0
池田	0
坂口	0
計	13
PT	(1)

GK・FP〔審・山中、久保〕

〔三陽〕	得
宇田川	0
吉田	0
関	0
清家	4
田口	1
砂川	8
山口	1
浜田	3
安藤	1
河村	2
吉原	0
大塚	3
計	23
PT	(1)

大崎電気 30（13－12, 17－15）27 三景

得	〔大崎〕		〔三景〕	得
0	岡部	GK	中村	1
0	渡辺	GK	北川	0
0	矢内	FP	長橋	0
10	松岡	FP	田畑	0
6	大和田	FP	近藤	3
0	武田	FP	高橋	0
0	首藤	FP	福永	4
1	中田	FP	郡司	5
3	山本	FP	田村	4
1	越迫	FP	鈴木	5
3	菅田	FP	山田	5
0	大野	FP	大谷	0
0	山内	FP	木原	0
0	相馬	FP	小金山	0
6	宮下	FP	浅賀	0
30	(3)	PT	(2)	27

審・宮沢・小林

大合特殊鋼 22（12－5, 10－9）14 トヨタ車体

得	〔大同〕		〔車体〕	得
0	上村	GK	宮田	0
0	秋吉	GK	村林	0
6	田中	FP	河村	2
1	内藤	FP	長野	0
1	高村	FP	蓑田	3
2	朝生	FP	君島	4
0	市川	FP	磯貝	0
0	中本	FP	藤長	2
0	河井	FP	松井	3
0	蒲生	FP	平野	0
1	横浜	FP	吉続	0
2	佐藤	FP	中島	0
1	中本	FP	井上	0
7	名取	FP	久保山	0
1	植木	FP		
22	(3)	PT	(0)	14

審・小山・牧田

トヨタ自動車 30（18－6, 12－10）16 中村荷役

得	〔自動車〕		〔中村〕	得
0	中西	GK	石井	0
0	西井	GK	高橋	0
3	香井	FP	末次	0
7	川田	FP	三尾	0
6	相本	FP	塚田	1
1	堀江	FP	北	2
1	酒井	FP	福士	1
2	中西	FP	大木	2
0	宮崎	FP	下戸成	2
2	乙子	FP	松本	0
4	坂口	FP	酒井	1
1	平野	FP	堀戸	0
1	白坂	FP	長原	1
1	松尾	FP	池田	2
1	田村	FP	坂口	4
30	(0)	PT	(2)	16

審・山中・久保

三陽商会 28（12－6, 16－8）14 トヨタ車体

得	〔三陽〕		〔車体〕	得
0	宇田川	GK	宮田	0
0	吉田	GK	村林	0
1	関	FP	河村	1
4	清家	FP	長野	0
3	田口	FP	蓑田	0
4	砂川	FP	君島	1
4	山口	FP	磯貝	1
4	浜田	FP	藤長	1
0	安藤	FP	松井	8
0	河村	FP	平野	2
0	吉原	FP	吉続	0
8	大塚	FP	中島	0
		FP	井上	0
		FP	久保山	0
28	(0)	PT	(6)	14

審・田村・斉藤

三景 25（13－10, 12－14）24 トヨタ自動車

得	〔三景〕		〔自動車〕	得
0	中村	GK	中西	0
0	北川	GK	西井	0
0	長橋	FP	香井	2
0	田畑	FP	川田	7
7	近藤	FP	相本	4
0	高橋	FP	堀江	1
3	福永	FP	酒井	0
2	郡司	FP	中西	6
5	田村	FP	宮崎	0
2	鈴木	FP	乙子	0
4	山田	FP	坂口	4
0	大谷	FP	平野	0
0	木原	FP	白坂	0
0	浅賀	FP	松尾	0
2	小金山	FP	田村	0
25	(1)	PT	(1)	24

審・上久保・北井

大同特殊鋼 36（19－3, 17－3）6 中村荷役

得	〔大同〕		〔中村〕	得
0	上村	GK	石井	
0	秋吉	GK	高橋	0
5	田中	FP	末次	0
2	内藤	FP	三尾	0
3	高村	FP	塚田	0
5	朝生	FP	北	0
2	市川	FP	福士	1
1	中本	FP	下戸成	1
0	河井	FP	酒井	0
0	蒲生	FP	松本	0
3	横浜	FP	堀戸	0
2	佐藤	FP	長原	1
5	中本	FP	池田	3
6	名取	FP	坂口	0
2	植木	FP		
36	(3)	PT	(1)	6

審・土屋・長瀬

大崎電気 25（10－7, 15－6）13 トヨタ車体

得	〔大崎〕		〔車体〕	得
0	岡部	GK	宮田	0
0	渡辺	GK	村林	0
0	矢内	FP	河村	1
0	松岡	FP	長野	1
8	大和田	FP	蓑田	0
6	武田	FP	君島	6
0	首藤	FP	磯貝	0
2	中田	FP	藤長	0
3	山本	FP	松井	2
0	越迫	FP	平野	0
0	菅田	FP	吉続	0
2	大野	FP	中島	3
0	柏崎	FP	井上	0
2	相馬	FP	久保山	0
2	宮下	FP		
25	(4)	PT	(0)	13

審・田中・山口

三景 30（15－14, 15－14）28 中村荷役

得	〔三景〕		〔中村〕	得
0	中村	GK	石井	0
0	北川	GK	高橋	0
0	長橋	FP	末次	0
6	近藤	FP	三尾	1
0	高橋	FP	塚田	2
2	福永	FP	北	3
5	郡司	FP	福士	8
2	田村	FP	大木	5
7	鈴木	FP	下戸成	0
7	山田	FP	酒井	0
0	大谷	FP	松本	0
0	木原	FP	堀戸	0
0	浅賀	FP	長原	3
1	小金山	FP	池田	6
		FP	坂口	0
30	(3)	PT	(0)	28

審・田村・斉藤

大同特殊鋼 24（9－12, 15－11）23 三陽商会

得	〔大同〕		〔三陽〕	得
0	上村	GK	宇田川	0
0	秋吉	GK	吉田	0
7	田中	FP	関	1
4	内藤	FP	清家	3
5	高村	FP	田口	0
1	朝生	FP	砂川	4
0	市川	FP	山口	3
1	中本	FP	浜田	9
0	河井	FP	安藤	0
0	蒲生	FP	河村	0
0	横浜	FP	吉原	0
1	佐藤	FP	大塚	3
1	中本	FP		
4	名取	FP		
0	植木	FP		
24	(4)	PT	(2)	23

審・上久保・北井

大崎電気 34（16－10, 18－8）18 トヨタ自動車

得	〔大崎〕		〔自動車〕	得
0	岡部	GK	中西	0
0	渡辺	GK	西井	0
0	矢内	FP	香井	5
4	松岡	FP	川田	5
9	大和田	FP	相本	1
1	武田	FP	堀江	0
0	首藤	FP	酒井	0
8	中田	FP	中西	0
2	山本	FP	宮崎	0
0	越迫	FP	乙子	0
2	菅田	FP	坂口	4
1	大野	FP	平野	0
0	柏崎	FP	白坂	0
0	相馬	FP	松尾	3
7	宮下	FP	田村	0
34	(1)	PT	(1)	18

審・土屋・長瀬

トヨタ車体 27（15－6, 12－8）14 中村荷役

得	〔車体〕		〔中村〕	得
0	宮田	GK	石井	0
0	村林	GK	高橋	0
4	河村	FP	末次	0
7	長野	FP	三尾	0
1	蓑田	FP	塚田	0
4	君島	FP	北	2
0	磯貝	FP	福士	4
1	藤長	FP	大木	3
8	松井	FP	下戸成	0
0	平野	FP	酒井	0
0	吉続	FP	松本	0
2	中島	FP	堀戸	0
0	井上	FP	長原	0
0	久保山	FP	池田	3
		FP	坂口	2
27	(4)	PT	(0)	14

審・伊藤・阿部

三陽商会 27（17－8, 10－14）22 三景

得	〔三陽〕		〔三景〕	得
0	宇田川	GK	中村	0
0	吉田	GK	北川	0
1	関	FP	長橋	0
6	清家	FP	田畑	0
0	田口	FP	近藤	3
3	砂川	FP	高橋	0
4	山口	FP	福永	2
6	浜田	FP	郡司	2
1	安藤	FP	田村	9
1	河村	FP	鈴木	3
0	吉原	FP	山田	2
5	大塚	FP	大谷	1
		FP	木原	0
		FP	小金山	0
27	(2)	PT	(2)	22

大同特殊鋼 30（14－4、16－7）11 トヨタ自動車

得	〔大同〕		〔自動車〕	得
0	上村	GK	中西	0
0	秋吉	GK	西井	0
4	田中	FP	香井	0
5	内藤		川田	6
3	高村		根本	0
5	朝生		堀江	2
1	市川		酒井	0
1	中本		中西	1
0	河井		宮崎	0
2	蒲生		乙子	0
0	横浜		坂口	1
2	佐藤		平野	0
5	中本		白坂	0
1	名取		松尾	1
1	植木		田村	0
30	(0)	PT	(2)	11

（審・平野、水谷）

大崎電気 31（11－11、20－6）17 中村荷役

得	〔大崎〕		〔中村〕	得
0	岡部	GK	石井	0
0	渡辺	GK	高橋	0
0	矢内	FP	末次	0
3	松岡		三尾	2
4	大和田		塚田	0
5	武田		北	1
0	首藤		福士	6
5	中田		下戸成	0
1	山本		酒井	4
3	越迫		堀戸	0
3	菅田		長原	4
0	大野		池田	0
0	山内		坂口	0
6	相馬			
1	宮下			
31	(2)	PT	(0)	17

（審・稲村、井川）

三景 30（13－10、17－13）23 トヨタ車体

得	〔三景〕		〔車体〕	得
0	中村	GK	宮田	0
0	北川	GK	村林	0
3	田畑	FP	河村	3
4	近藤		長野	5
0	高橋		蓑田	0
2	福永		君島	6
6	郡司		磯貝	0
9	田村		藤長	0
4	鈴木		松井	4
1	山田		平野	0
0	大谷		吉続	3
0	木原		中島	0
0	長橋		井上	0
1	小金山		久保山	2
30	(2)	PT	(1)	23

（審・中山、久保）

三陽商会 25（13－11、12－7）18 トヨタ自動車

得	〔三陽〕		〔自動車〕	得
0	宇田川	GK	中西	0
0	吉田	GK	西井	0
2	関	FP	香井	4
7	清家		川田	3
0	田口		相本	4
2	砂川		堀江	4
7	山口		酒井	0
1	浜田		中西	1
0	安藤		宮崎	0
0	河村		乙子	0
0	吉原		坂口	1
6	大塚		平野	0
			白坂	0
			松尾	1
			田村	0
25	(0)	PT	(1)	18

（審・寿川、稲村）

大崎電気 24（12－11、12－9）20 大同特殊鋼

得	〔大崎〕		〔大同〕	得
0	岡部	GK	上村	0
0	渡辺	GK	秋吉	0
0	矢内	FP	田中	1
2	松岡		内藤	0
5	大和田		高村	5
0	武田		朝生	6
0	首藤		市川	1
3	中田		中本	3
6	山本		河井	0
1	越迫		蒲生	0
1	菅田		横浜	0
0	大野		佐藤	0
0	柏崎		中本	1
0	相馬		名取	3
6	宮下		植木	0
24	(4)	PT	(1)	20

（審・山田、飯野）

〈東地区女子〉

大崎電気が優勝

〔順位〕
①大崎電気（5勝）
②日本ビクター（4勝1敗）
③日立栃木（3勝2敗）
④シャトレーゼ（2勝3敗）
⑤東京重機（1勝4敗）
⑥ムネカタ（5敗）

シャトレーゼ 24（12－11、12－12）23 東京重機

得	〔シャト〕		〔重機〕	得
0	丸山	GK	大角	0
0	高原	GK		
3	嶋崎	FP	山崎	5
12	海道		佐藤	5
0	松沢		嶋田	3
1	島袋		内山	0
0	小林		伊原	3
0	小野寺		井田	0
0	大木		古谷	4
2	小沼		大林	3
4	山岸		熊谷	0
1	李			
0	井出			
1	野沢			
0	菊池			
24	(2)	PT	(1)	23

（審・後藤、島田）

日本ビクター 30（14－4、16－4）8 ムネカタ

得	〔日ビ〕		〔ムネ〕	得
0	小口	GK	遠藤	0
0	高橋	GK	我妻	0
3	武藤	FP	佐藤	2
7	長田		管野	0
3	枝川		桜井	0
2	下篠		皆川	3
1	平松		太田	3
1	根本		川名	0
0	太田		上遠野	0
5	工藤		高橋	0
0	松井		伊藤	0
2	永岡		仲野	0
5	山之内			
1	中村			
30	(3)	PT	(1)	8

（審・島田、羽田）

日立栃木 26（15－12、11－9）21 東京重機

得	〔日立〕		〔重機〕	得
0	岡本	GK	大角	0
0	梅津	GK		
3	前田	FP	山崎	4
6	井沢		佐藤	5
0	山口		嶋田	2
4	菅原		内山	0
5	山岸		伊藤	0
3	尾苗		井田	0
2	中村		古谷	3
0	神永		大林	3
0	繁在家		熊谷	4
2	石毛			
0	新井			
1	岡田			
0	吉鶴			
26	(2)	PT	(1)	21

（審・後藤、酒井）

大崎電気 30（19－13、11－15）28 日本ビクター

得	〔大崎〕		〔日ビ〕	得
0	大西	GK	小口	0
0	佐々木	GK	高橋	0
0	宗片	FP		
0	森田		武藤	5
0	松尾		長田	9
2	須永		枝川	8
1	石井		下篠	4
1	沖山		平松	1
0	徳渕		根本	0
8	金		太田	0
0	福井		工藤	1
14	尹		松井	0
3	江口		永岡	0
0	前川		山之内	0
0	鈴木		中村	0
29	(3)	PT	(3)	28

（審・小笠原、浜田）

日立栃木 33（17－13、16－11）24 シャトレーゼ

得	〔日立〕		〔シャト〕	得
0	岡本	GK	丸山	0
0	梅津	GK	高原	0
6	前田	FP	嶋崎	7
4	井沢		海道	8
0	山口		松沢	1
3	菅原		島袋	1
7	山岸		小林	1
6	尾苗		小野寺	2
5	中村		大木	0
0	神永		小沼	0
0	繁在家		山岸	3
2	石毛		李	1
0	新井		井出	0
0	岡田		野沢	0
0	吉鶴		菊池	0
33	(1)	PT	(1)	24

（審・小笠原、浜田）

大崎電気 32（14－10、18－13）23 ムネカタ

得	〔大崎〕		〔ムネ〕	得
0	大西	GK	遠藤	0
0	佐々木	GK	我妻	0
8	森田	FP	佐藤	7
2	松尾		管野	0
2	須永		桜井	1
5	石井		皆川	2
6	沖山		太田	7
1	徳渕		川名	0
0	金		上遠野	2
1	福井		高橋	0
0	尹		伊藤	4
3	江口		仲野	0
1	前川			
3	鈴木			
32	(1)	PT	(0)	23

（審・酒井、羽田）

大崎電気 27（13－11、14－12）23 東京重機

得	〔大崎〕		〔重機〕	得
0	大西	GK	大角	0
0	佐々木	GK		
0	宗片	FP		
6	森田		山崎	4
3	松尾		佐藤	2
0	須永		嶋田	3
2	石井		内山	0
3	沖山		伊原	1
0	徳渕		井田	0
7	金		古谷	6
0	福井		大林	7
3	尹		熊谷	0
2	江口			
0	前川			
1	鈴木			
27	(4)	PT	(0)	23

（審・宮川、高柳）

日立栃木 33（14－6、16－4）10 ムネカタ

	〔日立〕	得
GK	岡本	0
	梅津	0
FP	前田	0
	井沢	2
	山口	2
	菅原	10
	山岸	2
	尾苗	3
	中村	1
	神永	2
	繁在家	3
	石毛	0
	新井	2
	岡田	4
	神長	2
PT		(1)
	計	33

	〔ムネ〕	得
GK	遠藤	0
	我妻	0
FP	佐藤	5
	菅野	0
	桜井	1
	皆川	2
	太田	1
	川名	0
	上遠野	0
	高橋	0
	伊藤	1
	仲野	0
PT		(1)
	計	10

審・高柳・宮川

日本ビクター 19（8－8、11－7）15 シャトレーゼ

	〔日ビ〕	得
GK	小口	0
	高橋	0
FP	武藤	5
	長田	8
	枝川	2
	下篠	1
	平松	0
	根本	0
	太田	1
	工藤	2
	松井	0
	永岡	0
	山之内	0
	中村	0
PT		(2)
	計	19

	〔シャト〕	得
GK	丸山	0
	高原	0
FP	工藤	0
	星野	0
	嶋崎	6
	海道	2
	松沢	1
	島袋	0
	小林	1
	小野寺	2
	小沼	1
	山岸	1
	李	0
	井出	0
	野沢	1
PT		(2)
	計	15

審・後藤・酒井

東京重機 28（15－7、13－10）17 ムネカタ

	〔重機〕	得
GK	大角	0
FP	山崎	4
	佐藤	5
	嶋田	2
	内山	1
	伊原	5
	井田	1
	古谷	6
	大林	3
	熊谷	1
PT		(1)
	計	28

	〔ムネ〕	得
GK	遠藤	0
	我妻	0
FP	佐藤	4
	管野	0
	桜井	4
	皆川	1
	太田	4
	川名	1
	上遠野	1
	高橋	2
	伊藤	0
	仲野	0
PT		(1)
	計	17

審・浜田・小笠原

大崎電気 24（9－14、15－8）22 シャトレーゼ

	〔大崎〕	得
GK	大西	0
	佐々木	0
FP	宗片	0
	森田	0
	松尾	0
	須永	2
	石井	5
	沖山	1
	徳渕	3
	金	4
	福井	0
	尹	6
	江口	2
	前川	0
	鈴木	1
PT		(0)
	計	24

	〔シャト〕	得
GK	丸山	0
	高原	0
FP	工藤	0
	星野	0
	嶋崎	1
	海道	6
	松沢	2
	小林	2
	小野寺	5
	島袋	0
	小沼	1
	李	0
	井出	4
	野沢	0
	山岸	1
PT		(1)
	計	22

審・島田・羽田

日本ビクター 22（12－11、10－7）18 日立栃木

	〔日ビ〕	得
GK	小口	0
	高橋	0
FP	武藤	4
	長田	4
	枝川	5
	下條	5
	平松	0
	根本	2
	太田	0
	工藤	2
	松井	0
	永岡	0
	山之内	0
	中村	0
PT		(5)
	計	22

	〔日立〕	得
GK	岡本	0
	梅津	0
FP	前田	5
	井沢	5
	山口	0
	菅原	3
	山岸	3
	尾苗	0
	中村	0
	神永	0
	繁在家	0
	石毛	2
	新井	0
	岡田	0
	神長	0
PT		(1)
	計	18

審・浜田・小笠原

シャトレーゼ 29（15－8、14－5）13 ムネカタ

	〔シャト〕	得
GK	丸山	0
	高原	0
FP	工藤	0
	星野	0
	嶋崎	4
	海道	4
	松沢	0
	小林	0
	小野寺	2
	大木	0
	小沼	6
	山岸	7
	李	0
	井出	3
	菊池	3
PT		(2)
	計	29

	〔ムネ〕	得
GK	遠藤	0
	我妻	0
FP	佐藤	3
	管野	0
	桜井	2
	皆川	4
	太田	0
	川名	3
	上遠野	1
	高橋	0
	伊藤	0
	仲野	0
PT		(1)
	計	13

審・酒井・羽田

大崎電気 29（16－12、13－13）25 日立栃木

	〔大崎〕	得
GK	大西	0
	佐々木	0
FP	宗片	0
	森田	0
	松尾	0
	須永	1
	石井	4
	沖山	0
	徳渕	2
	金	9
	福井	0
	尹	9
	江口	3
	前川	0
	鈴木	1
PT		(2)
	計	29

	〔日立〕	得
GK	岡本	0
	梅津	0
FP	葛生	0
	前田	7
	井沢	6
	山口	0
	菅原	1
	山岸	2
	尾苗	2
	中村	2
	神永	0
	繁在家	0
	石毛	2
	新井	1
	岡田	2
PT		(2)
	計	25

審・島田・羽田

日本ビクター 31（18－9、13－12）21 東京重機

	〔日ビ〕	得
GK	山口	0
	高橋	0
FP	武藤	4
	長田	11
	枝川	6
	下條	3
	平松	1
	根本	1
	太田	1
	工藤	1
	松井	1
	永岡	1
	山之内	1
	中村	0
PT		(7)
	計	31

	〔重機〕	得
GK	大角	0
FP	山崎	2
	佐藤	4
	嶋田	2
	内山	0
	伊藤	3
	井田	0
	古谷	7
	大林	3
	熊谷	0
PT		(1)
	計	21

審・浜田・小笠原

〈西地区男子〉

湧永製薬が優勝

〔順位〕
①湧永製薬（6勝）
②本田技研鈴鹿（5勝1敗）
③日新製鋼（4勝2敗）
④本田技研熊本（3勝3敗）
⑤大阪ガス（2勝4敗）
⑥豊田自動織機（1勝5敗）
⑦日鉄建材工業（6敗）

豊田自動織機 24（14－9、10－6）15 日鉄建材

	〔織機〕	得
GK	中村	0
	柴田	0
FP	蟹江	1
	奥田	4
	古田	1
	諌山	3
	兵藤	0
	大城	2
	前川	7
	笹嶺	0
	山内	6
PT		(1)
	計	24

	〔日鉄〕	得
GK	蓑輪	0
	川上	0
FP	霜村	0
	杉本	3
	山口	3
	中山	3
	池辺	0
	上山	3
	外山	2
	清原	0
	若本	0
	玉嶋	1
PT		(1)
	計	15

審・福井・吉田

日新製鋼 32（14－12、18－9）21 大阪ガス

	〔日新〕	得
GK	谷	0
	森田	0
FP	森	2
	武田	1
	西山	2
	河崎	0
	甲斐	3
	藤井	3
	日野	0
	堀田	8
	藤本	2
	一瀬	2
	高木	6
	野中	2
	池田	1
PT		(3)
	計	32

	〔大阪〕	得
GK	福田	1
FP	奥野	3
	竹志	0
	藤井	0
	大西	0
	中村	1
	長田	8
	水谷	3
	田坂	2
	藤田	3
PT		(2)
	計	21

審・兼田・佐谷

湧永製薬 26（14－5、12－5）10 本田技研熊本

	〔湧永〕	得
GK	大城	0
	井藤	0
FP	徐	0
	生駒	2
	玉村	6
	堀田	5
	志賀	3
	中川	0
	内田	2
	荷川取	2
	山本	0
	奥田	1
	栖原	3
	酒巻	1
	藤本	1
PT		(1)
	計	26

	〔熊本〕	得
GK	中尾	0
	坂本	0
FP	田上	0
	斉所	0
	長野	1
	佐伯	2
	長野	2
	荒田	0
	三代	0
	松村	0
	矢野	0
	田中	0
	山口	1
	川崎	4
PT		(1)
	計	10

審・浅井・山本

本田技研鈴鹿 33（18－3、15－1）4 豊田自動織機

	〔鈴鹿〕	得
GK	大畑	0
	橋本	0
FP	真砂	5
	三本松	2
	藤井	4
	立木	0
	尾上	2
	内藤	2
	粟屋	2
	吉山	2
	田口	0
	船谷	3
	山本	1
	山村	3
	平子	7
PT		(0)
	計	33

	〔織機〕	得
GK	中村	0
	柴田	0
FP	蟹江	0
	奥畑	1
	古田	0
	諌山	1
	兵藤	1
	大城	0
	前川	1
	笹嶺	0
	山内	0
PT		(0)
	計	4

審・福井・吉岡

本田技研熊本 27〔13－9 / 14－8〕17 大阪ガス

	〔熊本〕	得
GK	中尾	0
	坂本	0
FP	斉所	1
	長野	7
	佐伯	4
	長野	1
	荒田	4
	三代	1
	松村	0
	矢野	0
	田中	2
	山口	0
	川崎	7
PT	(7)	27

	〔大阪〕	得
GK	福田	0
FP	奥野	1
	竹志	1
	藤井	0
	大西	1
	中村	2
	長田	7
	水谷	0
	田坂	1
	藤田	4
PT	(3)	17

審・兼田　佐谷

本田技研鈴鹿 30〔16－5 / 14－5〕10 日鉄建材

	〔鈴鹿〕	得
GK	大畑	0
	橋本	0
FP	真砂	0
	三本松	1
	藤井	6
	立木	5
	尾上	0
	内藤	1
	粟屋	3
	吉山	4
	田口	1
	船谷	1
	山本	3
	山村	2
	平子	3
PT	(5)	30

	〔日鉄〕	得
GK	蓑輪	0
	川上	0
FP	霜村	0
	杉本	2
	山口	3
	中山	1
	池辺	0
	上山	1
	外山	2
	清原	0
	若本	1
	玉嶋	0
PT	(1)	10

審・浅井　山本

湧永製薬 23〔11－7 / 12－11〕18 日新製鋼

	〔湧永〕	得
GK	大城	0
	井藤	0
	徐	0
FP	生駒	2
	玉村	5
	堀田	2
	志賀	2
	中川	2
	内田	2
	荷川取	1
	山本	1
	奥田	2
	楢原	0
	酒巻	4
	藤本	0
PT	(2)	23

	〔日新〕	得
GK	西川	0
	谷	0
FP	森田	0
	森	2
	武田	3
	西山	2
	甲斐	1
	藤井	0
	日野	0
	堀田	3
	藤本	1
	一瀬	0
	高木	5
	野中	1
	池田	0
PT	(0)	18

審・兼田　吉岡

大阪ガス 23〔10－6 / 13－11〕17 日鉄建材

	〔大阪〕	得
GK	福田	0
FP	奥野	1
	竹志	1
	藤井	0
	中村	0
	長田	6
	水谷	3
	田坂	4
	藤田	8
	新家谷	0
	大西	0
PT	(3)	23

	〔日鉄〕	得
GK	蓑輪	0
	川上	0
FP	霜村	0
	杉本	2
	山口	2
	中山	2
	池辺	0
	上山	8
	外山	1
	清原	0
	若本	0
	玉嶋	2
PT	(2)	17

審・鈴木　佐谷

日新製鋼 31〔15－11 / 16－12〕23 本田技研熊本

	〔日新〕	得
GK	谷	0
	森田	0
FP	森	2
	武田	2
	西山	3
	甲斐	2
	藤井	2
	一瀬	2
	堀田	5
	高木	9
	藤本	1
	池田	1
	日野	2
PT	(6)	31

	〔熊本〕	得
GK	中尾	0
	坂本	0
FP	佐伯	4
	長野一	0
	荒田	4
	三代	4
	田中	4
	川崎	5
	長野ト	2
	松村	0
PT	(2)	23

審・太田　吉田

湧永製薬 36〔20－6 / 16－3〕9 豊田自動織機

	〔湧永〕	得
GK	井藤	0
	徐	0
FP	玉村	2
	志賀	3
	中川	4
	内田	0
	奥田	4
	酒巻	3
	荷川取	2
	山本	2
	楢原	1
	藤本	4
	堀田	9
	生駒	2
PT	(2)	36

	〔織機〕	得
GK	中村	0
	柴田	0
FP	蟹江	3
	奥畑	2
	古田	0
	諫山	0
	兵藤	0
	大城	2
	前川	2
	笹瀬	0
	山内	0
PT	(0)	9

審・浅井　山本

本田技研鈴鹿 41〔19－10 / 23－3〕13 大阪ガス

	〔鈴鹿〕	得
GK	大畑	0
	橋本	0
FP	真砂	2
	立木	1
	内藤	3
	田口	0
	山村	7
	粟屋	6
	吉山	2
	藤井	2
	平子	8
	三本松	2
	山本	4
	船谷	4
	尾上	0
PT	(2)	41

	〔大阪〕	得
GK	福田	0
FP	奥野	0
	長田	2
	水谷	2
	田坂	6
	藤田	3
	竹志	0
	大西	0
	藤井	0
PT	(0)	13

審・鈴木　佐谷

本田技研熊本 24〔11－10 / 13－7〕17 豊田自動織機

	〔熊本〕	得
GK	中尾	0
	坂本	0
FP	斉所	0
	長野	2
	佐伯	4
	長野	4
	荒田	1
	三代	8
	松村	0
	矢野	0
	田中	1
	川崎	2
	山口	2
PT	(1)	24

	〔織機〕	得
GK	中村	0
	柴田	0
FP	蟹江	3
	奥畑	3
	古田	0
	諫山	0
	兵藤	1
	大城	5
	前川	5
	笹嶺	0
PT	(1)	17

審・島崎　兼田

湧永製薬 39〔21－6 / 18－7〕13 日鉄建材

	〔湧永〕	得
GK	大城	0
	多田	0
	徐	1
FP	生駒	5
	玉村	5
	堀田	7
	志賀	4
	中川	2
	内田	2
	荷川取	0
	山本	0
	奥田	4
	楢原	2
	酒巻	2
	藤本	5
PT	(0)	39

	〔日鉄〕	得
GK	蓑輪	0
	川上	0
FP	霜村	0
	杉本	1
	山口	5
	中山	2
	池辺	1
	上山	1
	外山	1
	清原	1
	若本	0
	玉嶋	1
PT	(1)	13

審・太田　吉田

本田技研鈴鹿 20〔10－7 / 10－7〕14 日新製鋼

	〔鈴鹿〕	得
GK	橋本	0
FP	真砂	1
	立木	0
	内藤	3
	田口	2
	山村	0
	粟屋	5
	吉山	5
	尾上	1
	平子	0
	山本	2
	藤井	1
PT	(5)	20

	〔日新〕	得
GK	西川	0
FP	西山	5
	武田	2
	甲斐	0
	藤井	1
	高木	3
	堀田	3
	野中	1
	池田	0
	藤本	0
PT	(4)	14

審・浅井　山本

日新製鋼 26〔12－3 / 14－1〕4 豊田自動織機

	〔日新〕	得
GK	谷	0
	森田	0
FP	森	0
	武田	2
	西山	4
	甲斐	1
	藤井	0
	日野	1
	堀田	1
	藤本	4
	一瀬	2
	高木	3
	河崎	2
	野中	4
	池田	2
PT	(0)	26

	〔織機〕	得
GK	中村	0
	柴田	0
FP	蟹江	1
	奥畑	0
	古田	0
	諫山	2
	兵頭	0
	大城	1
	前川	0
	笹嶺	0
PT	(0)	4

審・佐谷　兼田

本田技研熊本 27〔10－5 / 17－5〕14 日鉄建材

	〔熊本〕	得
GK	中尾	0
	坂本	0
FP	斉所	0
	長野	4
	佐伯	4
	長野	4
	荒田	1
	三代	3
	松村	1
	矢野	1
	田中	4
	山口	0
	川崎	5
PT	(4)	27

	〔日鉄〕	得
GK	蓑輪	0
	川上	0
FP	霜村	0
	杉本	3
	山口	4
	中山	1
	池辺	3
	上山	1
	外山	0
	清原	0
	若本	0
	玉嶋	0
PT	(1)	14

審・木村　田中

大阪ガス 28（13−4、15−5）**9 豊田自動織機**

得	〔大阪〕		〔織機〕	得
0	福田	GK	中村	0
			柴田	0
5	奥野	FP	蟹江	1
3	竹志		奥畑	0
0	藤井		古田	1
3	中村		諫山	2
3	長田		兵藤	1
5	水谷		大城	2
3	田坂		前川	2
6	藤田		笹嶺	0
0	新家谷		山内	0
28	(1)	PT	(1)	9

審・兼田・福井

湧永製薬 18（10−9、8−5）**14 本田技研鈴鹿**

得	〔湧永〕		〔鈴鹿〕	得
0	大城	GK	大畑	0
0	井藤		橋本	0
2	酒巻	FP	真砂	0
2	生駒		三本松	0
6	玉村		藤井	1
0	堀田		立木	3
4	志賀		尾上	0
1	中川		内藤	1
3	内田		粟屋	2
0	荷川取		古山	2
0	山本		田口	1
0	奥田		船谷	0
0	檜原		山本	1
0	藤本		山村	3
0	徐		平子	0
18	(2)	PT	(4)	14

審・浅井・山本

日新製鋼 28（14−5、14−3）**8 日鉄建材**

得	〔日新〕		〔日鉄〕	得
0	西川	GK	蓑輪	0
0	谷		川上	0
0	森田	FP	霜村	0
3	森		杉本	0
0	武田		山口	0
2	西山		中山	2
1	甲斐		池辺	
2	日野		上山	3
3	堀田		外山	2
4	藤本		清原	0
3	一瀬		若本	1
2	高木		玉嶋	0
4	河崎			
3	野中			
1	池田			
28	(1)	PT	(0)	8

審・佐谷・田中

本田技研鈴鹿 36（17−11、19−6）**17 本田技研熊本**

得	〔鈴鹿〕		〔熊本〕	得
0	大畑	GK	中尾	0
0	橋本		坂本	0
2	真砂	FP	斉所	0
4	三本松		長野	1
5	藤井		佐伯	2
4	立木		長野	4
2	尾上		荒田	4
1	内藤		三代	1
0	粟屋		松村	0
2	吉山		矢野	0
3	田口		田中	2
0	船谷		山口	1
4	山本		川崎	2
5	山村			
4	平子			
36	(3)	PT	(2)	17

審・浅井・山本

湧永製薬 37（12−8、15−7）**15 大阪ガス**

得	〔湧永〕		〔大阪〕	得
0	大城	GK	福田	0
0	多田			
0	生駒	FP	奥野	1
10	玉村		竹志	1
8	堀田		藤井	0
1	志賀		大西	0
2	中川		中村	1
0	内田		長田	6
0	荷川取		水谷	3
1	山本		田坂	2
5	奥田		藤田	1
2	檜原			
6	酒巻			
2	藤本			
0	徐			
37	(0)	PT	(3)	15

審・兼田・福井

〈西地区女子〉

ブラザー工業が優勝

〔順位〕

①ブラザー工業（4勝1敗）
②立石電機山鹿（4勝1敗）
③北国銀行（3勝2敗）
④ジャスコ（2勝3敗）
⑤大和銀行（2勝3敗）
⑥ソニー国分（5敗）

立石電機山鹿 28（15−8、13−9）**17 北国銀行**

得	〔立石〕		〔北国〕	得
0	岡本	GK	辻	0
0	竹下		川北	0
0	山口	FP	木戸	0
2	山内		中川	4
0	江口		林	1
2	横田		丹後	4
5	野嶋		松田	0
1	田中		松下	1
3	武津		川崎	0
4	中山		塙	0
1	毛利		北川	0
1	斉藤		金(明)	3
9	橋本		金(昌)	2
0	川島		北川	2
28	(1)	PT	(2)	17

審・溝口・稲石

ジャスコ 30（13−10、17−9）**19 ソニー国分**

得	〔ジャ〕		〔ソニー〕	得
0	小深田	GK	阿多石	0
0	山口			
0	吉田	FP	斜木	0
2	服部		宮原	4
3	石田		白石	0
8	近藤		林	0
5	佐々木		崎元	6
1	常石		東郷	3
0	武田		山口	2
3	川井		藤元	4
1	稲田		楠本	0
5	東山		当房	0
1	今井		永尾	0
1	池田			
30	(6)	PT	(2)	19

審・佐藤・徳永

立石電機山鹿 23（10−5、13−12）**17 大和銀行**

得	〔立石〕		〔大和〕	得
0	岡本	GK	高浜	0
0	竹下		増見	0
0	山口	FP	坂口	0
0	山内		丸田	3
2	江口		鈴木	4
4	横田		赤瀬	3
5	野嶋		小池	6
0	田中		藤本	0
2	武津		渡辺	1
6	中山		裴川	0
0	毛利		木瀬	0
1	斉藤		平井	0
3	橋本		貞本	0
			松田	0
23	(1)	PT	(3)	17

審・澤・大原

ブラザー工業 22（8−8、14−7）**15 ジャスコ**

得	〔ブ工〕		〔ジャ〕	得
0	大藪	GK	小深田	0
			山口	0
3	荒木	FP	吉田	0
0	小池		服部	3
0	茂山		石田	2
5	中村		近藤	5
6	太田		佐々木	0
3	久保田		常石	1
0	大久保		武田	0
2	松尾		川井	2
2	末永		稲田	1
1	野田		東出	1
			今井	0
			池田	0
22	(1)	PT	(1)	14

審・溝口・稲石

大和銀行 25（17－10／8－10）20 北国銀行

〔大和〕		得
GK	高浜	0
	増見	0
FP	丸田	5
	鈴木	5
	赤瀬	2
	小池	2
	藤本	4
	渡辺	4
	襄川	1
	木瀬	0
	平井	0
	貞本	2
	松田	0
PT (2)		25

〔北国〕		得
GK	辻	0
	川北	0
	木戸	0
FP	中川	1
	林	4
	丹後	0
	松田	0
	松下	0
	川崎	1
	塙	0
	北川静	0
	金明	2
	金昌	11
	上田	1
	北川真	0
PT (2)		20

審・佐藤・徳永

ブラザー工業 18（7－6／11－6）12 ソニー国分

〔ブ工〕		得
GK	大藪	0
	三浦	0
FP	荒木	0
	小池	0
	茂山	0
	中村	8
	太田	2
	久保田	3
	大久保	0
	松尾	0
	末永	3
	野田	2
PT (2)		18

〔ソニー〕		得
GK	阿多石	0
FP	斜木	0
	宮原	1
	白石	0
	崎元	0
	東郷	1
	山口	1
	藤元	7
	楠本	0
	当房	0
	永尾	2
PT (3)		12

審・澤・大原

ジャスコ 23（11－5／12－8）13 大和銀行

〔大和〕		得
GK	高浜	0
	増見	0
FP	坂口	0
	丸田	6
	鈴木	2
	赤瀬	0
	小池	3
	藤本	0
	渡辺	1
	襄川	0
	木瀬	0
	平井	0
	貞本	1
	松田	0
PT (2)		13

〔ジャ〕		得
GK	小深田	0
	山口	0
FP	吉田	0
	服部	3
	石田	2
	渡辺	3
	近藤	3
	佐々木	4
	常石	0
	武田	0
	川井	3
	稲田	0
	東出	3
	今井	0
	池田	2
PT (3)		23

審・西川・浅野

立石電機山鹿 27（13－8／14－12）20 ソニー国分

〔ソニー〕		得
GK	阿多石	0
FP	斜木	2
	宮原	2
	白石	0
	林	0
	崎元	2
	東郷	3
	山口	0
	藤元	3
	楠本	2
	当房	0
	永尾	6
PT (0)		20

〔立石〕		得
GK	岡本	0
	竹下	0
FP	川島	0
	山口	3
	山内	0
	横田	2
	野嶋	4
	田中	3
	武津	8
	毛利	0
	斉藤	1
	橋本	6
PT (2)		27

審・飼沼・道満

北国銀行 25（15－12／10－11）23 ブラザー工業

〔ブ工〕		得
GK	大藪	0
	三浦	0
FP	荒木	7
	小池	0
	茂山	0
	中村	4
	太田	1
	久保田	9
	大久保	0
	松尾	1
	末永	0
	野田	1
PT (2)		23

〔北国〕		得
GK	辻	0
	川北	0
	木戸	0
FP	中川	4
	林	5
	丹後	1
	松田	2
	松下	1
	川崎	1
	塙	0
	北川	1
	金（明）	0
	金（昌）	0
	川北	0
	北川	0
PT (6)		25

審・小山・桜井

大和銀行 29（14－8／15－3）11 ソニー国分

〔ソニー〕		得
GK	阿多石	0
FP	斜木	3
	宮原	0
	白石	0
	林	1
	崎元	1
	東郷	0
	山口	4
	藤元	1
	楠本	0
	当房	0
	永尾	1
PT (1)		11

〔大和〕		得
GK	高浜	0
	増見	0
FP	坂口	0
	丸田	3
	鈴木	3
	赤瀬	6
	小池	4
	藤本	2
	渡辺	3
	襄川	2
	木瀬	4
	平井	0
	貞本	2
	松田	0
PT (1)		29

審・西川・浅野

北国銀行 21（6－9／15－9）18 ジャスコ

〔ジャ〕		得
GK	小深田	0
	山口	0
FP	吉田	0
	服部	4
	石田	3
	渡辺	3
	近藤	5
	佐々木	1
	常石	0
	武田	0
	川井	1
	稲田	0
	東出	1
	今井	0
	池田	0
PT (4)		18

〔北国〕		得
GK	辻	0
	川北	0
	木戸	0
FP	中川	2
	林	2
	丹後	2
	松田	0
	松下	0
	川崎	4
	塙	0
	北川	0
	金	7
	北川	0
	金	4
PT (2)		21

審・飼沼・道満

ブラザー工業 20（11－4／9－11）15 立石電機山鹿

〔立石〕		得
GK	岡本	0
	竹下	0
FP	川島	0
	山口	0
	山内	1
	横田	3
	野嶋	5
	田中	0
	武津	2
	毛利	0
	斉藤	0
	橋本	4
PT (1)		15

〔ブ工〕		得
GK	大藪	0
	三浦	0
FP	荒木	6
	小池	0
	茂山	0
	中村	3
	太田	2
	久保田	4
	大久保	0
	松尾	1
	末永	1
	野田	3
PT (6)		20

審・小山・桜井

立石電機山鹿 24（13－11／11－5）16 ジャスコ

〔ジャ〕		得
GK	小深田	0
	山口	0
FP	服部	2
	石田	3
	渡辺	2
	近藤	2
	佐々木	0
	常石	0
	武田	0
	川井	3
	稲田	0
	東出	3
	今井	0
	池田	0
PT (2)		16

〔立石〕		得
GK	岡本	0
	竹下	0
FP	川島	0
	山口	1
	山内	4
	横田	3
	野嶋	5
	田中	3
	武津	3
	中山	1
	毛利	0
	橋本	4
PT (2)		24

審・細井・中野

ブラザー工業 21（11－6／10－7）13 大和銀行

〔大和〕		得
GK	高浜	0
	増見	0
FP	坂口	0
	丸田	3
	鈴木	4
	赤瀬	1
	小池	1
	藤本	2
	渡辺	2
	襄川	0
	木瀬	0
	平井	0
	貞本	0
	松田	0
PT (2)		13

〔ブ工〕		得
GK	大藪	0
	三浦	0
FP	荒木	6
	小池	0
	茂山	0
	中村	6
	太田	2
	久保田	2
	大久保	2
	松尾	0
	末永	2
	野田	1
PT (1)		21

審・浅田・永田

北下銀行 29（13－7／16－8）15 ソニー国分

〔ソニー〕		得
GK	阿多石	0
FP	斜木	1
	宮原	0
	白石	0
	林	0
	崎元	3
	東郷	1
	山口	3
	楠本	2
	当房	0
	永尾	5
PT (2)		15

〔北国〕		得
GK	辻	0
	川北	0
	木戸	0
FP	中川	3
	林	5
	丹後	1
	松田	5
	松下	2
	川崎	5
	塙	0
	北川	0
	金（明）	2
	金（昌）	4
	北川	2
PT (1)		29

審・平松・河合

オリンピック予選を戦い終って

ソウル・オリンピックのアジア地区予選を兼ねたアジア選手権大会を戦ってきた北川団長，野田，井の両監督をはじめ男女の全日本メンバーの方々に感想文を書いていただきました。ここにその全文をご紹介いたします。

ソウル・オリンピック男子の切符は球界全体のチームワークの勝利

北川勇喜

ハンドボール界あげて勝ちとった貴重なソウルへの切符

日本ハンド協会の舵を取る安藤専務が就任にあたっての抱負の中で、「当面の課題や使命は、'88ソウル・オリンピックの出場権を獲得することである。このソウルの指定券は日本ハンドボール界にとって達成されなければならない念願であり、私にとって最大の使命である」と語り、就任早々これに向かって意欲的に活動を開始した。その一歩は、ジャパンカップ'87をターゲットにした重点強化策であり、この大会のネックとなっていた予算に対する財政基盤を、東洋証券の冠大会にすることで解決し、フレッシュでアイデアに富んだ若者をいれたプロジェクトチームで、観客動員とマスコミPRに力を注いだ。この甲斐あって、大会は大成功を収め、狙い通り、男女のナショナルチームの競技力は一段と飛躍した。

しかもこの後、男子ナショナルの強い要請を受けて急遽、山口、広島、愛知、埼玉、東京協会バックアップのもとに、ユーゴの強豪メデベスチャックザグレブチームを招へいして強化に拍車をかけたのである。

このように、ソウルに向けて専務を軸にした協会スタッフの活動力、オリンピック基金の増額に賛同し強化にいろいろと協力してくれた地方協会、そして多くの合宿や遠征に御援助をいただいた各企業の関係者とのチームワークで勝ち取った貴重なソウルへの切符だと確信している。

1992年のバルセロナ・オリンピックには是が非でも男女を送ろう

去る4月、新体制のもとで強化担当理事に就き、今回アジア選手権兼ソウル・オリンピック予選選手団長を引き受けた理由は、来年9月ハンドボールを愛好する仲間大勢とともにソウルに出向いて、日本ナショナルチームの男女が晴れの舞台で活躍する姿を一緒に観戦し、応援したかったからである。

したがって、就任早々、井、野田両監督には、なんとしてでもソウルへと尻を叩き、選手には、日本のハンドボールのために、会社や学校のために、そして自分のために、ソウルへとハッパをかけたし、そしてヨルダンでは「この一戦」、「この一球」に勝負をかけろと彼らに檄をとばした。

しかしながら結果は、男子は残り1分50秒この一球を決め、女子は、残り16秒「この一球」を守れずに涙を飲んだ。

女子の対中国戦終了後、重い足を引き摺って控室に足を運んだが、廊下まで響く号泣にドアに手をかけることさえ出来なかった。

おそらく今後オリンピックがあるたびに悔しさ、悲しさで彼女たちの胸が痛むであろうが、もし、次のオリンピックバルセロナ大会に今回壮烈に戦った誰かが出場することになれば、きっと小さな胸がスカッと晴れるに違いない。このためにも、なんとしてでも男女一緒にバルセロナに送りたいものである。

目標達成に向け一層の努力を

男子チーム監督・野田清

本年3月、AHF常任委員会で急きょソウル・オリンピック予選と世界選手権大会のアジア予選を兼ねるアジア選手権大会が、8月、ヨルダンのアンマンにて開催されることが決定した。予定では11月に予選を行う計画で、出場権獲得を目標に活動を行ってきた全日本チームにとっては、会期が3ヶ月早まったことは大きな痛手であった。直ちに残り5ヶ月の強化計画を練り直し、3月韓国遠征、4月香港国際大会出場、5～6月東洋証券杯ジャパンカップ、7月東洋証券杯ユーゴ・日本国際大会、8月韓国国際大会出場と、ハードスケジュールをこなし、着実にチームの強化を図った。特に大会会場がヨルダンという事で、最終オリンピック出場権を争うと思われるクウェートのいわばホームコートに近い状況での対戦に、日本チームはより強い団結をかため大会へ臨んだ。

予選リーグ第1戦、去年アジア大会で敗れた宿敵中国をパーフェクトゲームで破り、難関を突破した日本チームは勢いに乗り、シリア、パレスチナを連破した。準決勝ではカタールに完勝し、決勝リーグに進んだが、韓国には大接戦の末残念ながら敗れ金メダルへの夢は破れた。しかし、オリンピック出場権をかけた最終戦、地元クウェート応援で熱狂する会場で、大激戦を演じ最後の力をふりしぼってその権利を勝ち取ったのであった。

日本チームは大会5日前に日本を出発、時差とヨルダンの生活環境に順応出来るようにした。現地でのトレーニングは軽トレーニング、コンビネーションの確認に重点をおいて疲労感を残さない配慮をした。敵地での大会であるため、各選手の闘争心の向上、チーム全体のムードアップを図り、〝心技体〟ともにピークの状態でゲームに臨めるようにした。また、健康

管理においては、チームドクター高橋氏の昼夜を問わぬ精力的な活動によって、各選手の肉体的な自信が精神的な支えにつながり、大きな目標を達成するための原動力となった。

本大会での成果の原因としては多くの国際試合の消化によって、試合プレッシャーに強くなっていたこと、試合のリズムを作ることが出来たので、ペースを守りゲームを進めることが出来たこと、試合中の闘争心、集中力がレベルアップしたことがあげられる。1・2・3ディフェンスの完成により、1試合の失点が20点を切り、ゴールキーパーの安定したキーピングが勝利へ大きく貢献したことがあげられる。

今後は、個人技能のレベルアップと速攻体制の強化などによる得点力の向上、新ディフェンスのマスターによる防御力の向上で、『30得点、25失点』を目標に的確な判断力を養い、常に有利な状態に攻守が展開出来る、闘争心にあふれた積極的なプレーが出来るチームムードを造り、ソウル・オリンピック6位入賞を目標に一丸となって進んで行きたい。

ソウル・オリンピックを目標として活動して来た日本チームが結成されてから3年、協会、選手所属チーム、全国の皆さまの暖かいご支援とご協力があったからこそ、オリンピック出場権が獲得出来たものと考えております。残された1年間悔いの残らないものとし、目標達成に向け精一杯頑張ることをお約束し報告といたします。

アンマンが与えてくれたもの

西山　清

今回の男子第4回・女子第1回アジア選手権は、中近東ヨルダン・アンマン市で行なわれました。この大会は、アジア選手権という大会の意味だけでなく、来年行なわれるソウル・オリンピック予選も兼ねており、日本ハンドボール界にとっては大変大きな意味を持っている大会でもあったのです。

全日本にとっては、もちろんヨルダンで試合を行なう事は初めてで、ましてそれが8月に行なわれるということで、当初日本チームは、対中国戦、クウェート戦は、ちょっと不利ではないかと思われました。我々全日本は、ヨルダンに近い環境でトレーニングする事が一番でしたが、ヨルダンに対する情報不足、それと日本では、ヨルダンに近い環境などあるはずもありません。そこで、全日本としては、この環境のハンディキャップを、練習内容でカバーするしかなかったのです。それこそ月に数日しか会社に出ない事が何回かあった程です。こうした事が、選手一人ひとりに絶対オリンピックの出場権を自分のためだけでなく、支援してくれる人たちのためにも得ないといけない気持ちから、それぞれが大きな責任感を持つようになったのです。これは、全日本選手にとって大変重要な要素なのです。ヨルダンという見知らぬ地で試合をやらないといけないという不安が、逆に我々に大きな「力」を与えてくれたように思えます。この「力」が、自信につながり、そしてそれがチームに一番必要な「信頼関係」につながっていったのです。こうしてヨルダン入りした訳ですが、そこで我々全日本に新たな「力」が湧いてきたのです。それは、日本で想像していたヨルダンの環境ではなく、むしろ今の時期を考えると日本より過ごしやすいくらいだったのです。確かに日射しは強いけど湿度が大変低く、コンディショニングが、案外容易だったのです。

このように、我々全日本にとってのヨルダンは、今思うと、いくつもの「プラスアルファーの力」を与えてくれたように思います。私だけでなく今回参加した人は、それぞれ形は違うかもしれませんが、このヨルダン・アンマン市での大会で、色々な成果を得る事が出来たのではないでしょうか。

大会とその運営について

朝生和光

最初、ヨルダンでアジア選手権があり、それがオリンピック予選も兼ねるという大事な試合が行なわれるというのは非常に不安だった。どういった治安の国なのか、またどういった環境の国でプレーなどにどう影響するのか、ハンドボールという球技にどこまで理解と関心をもっているのか、本当にオリンピックの予選を兼ねた大会なのかなと不安だらけでヨルダンにのりこんだが、環境や待遇などに関しては、さほど問題なかったと思う。しかし、スタッフ以下頭を悩ましたのが大会の運営面で、これまで自分が経験してきた国際大会の中で、これほど手際の悪いというか、ずさんな体制の中で、試合をしたことはなかった。まず、大会に関してのパンフレットというようなものが全くなく、どこのチームがどのようなメンバーで来ているのかなどがわからなかったこと、試合の開始時間などが明確でなかったこと、ルールというか規定というものがあやふやだったこと、これは、日本チームが一番感じたことで、シリア戦でユニフォームの色が同色になってしまい、IHFルールでは日本に決定権があるのにもかかわらず結局、日本が変える事になったのだが、もう一つのユニフォームを持ってきたおらず、前半ヨルダンのユニフォームを着て試合をやるというとんでもないハプニングがあった。登録の面もはっきりしない部分があり、一名の選手の登録変更の手続きを終えているのに、事務局はOKを出さず、大会中盤に入ってやっとOKが出て試合にも出れるようになった。

これらのような、事務的に慣れていないというか、あらゆる場面で滞っていたように思えた。これらの事は、何が、どこが悪いのかはわからないけれど、各国とも何年もかけて、オリンピックの出場権をとろうと強化してきて、大会に入ると不手際が目立ち、試合もそういった面で緊張感がとれてしまったりしたチームもないとはいえないと思う。そういった意味で、スッキリと大会が終わったという感じがもてなかった大会でもあった。

対中国戦

酒巻清治

ヨルダンアンマン市に着いてから3日過ぎ、時差ボケもとれ、選手全員初戦の中国戦に合わせてベストコンディションで、試合に臨むことが出来たと思います。

ソウル・オリンピックへの出場権を獲得するための難関である中国戦、特に今回は、中国のメンバーが前回対戦した昨年のアジア大会の時とは全く変わっており、どのようなチームなのかさっぱりわからない状態のままゲームをしなければなりませんでした。

しかし、中国は若い選手が多く、短期間でそれ程レベルの高いハンドボールが出来るとは考えられず、今までの中国に対する嫌なイメージが取りはらわれたのは事実でした。

そんなことも手伝って、精神的に全日本が優位にたてたのか、試合開始から気迫のこもったプレーで中国を圧倒していきました。

滑り出しは堅さのあった全日本ですが、中国の攻撃が左利きのセンタープレーヤー（7番）から展開されることがわかると、1・2・3DFのトップ田口が、積極的に7番をつぶしにかかり、中国の攻撃のリズムを完全に狂わしました。全日本の攻撃的なDFの前に、中国はミスを重ね、前半を12対6という予想もしなかったリードで折り返すことが出来、後半に入っても全日本のペースはくずれることなく、結果、26対12という大差で勝利を収めることができました。

中国の印象は、今までは、高さとパワーのハンドボールをするイメージが強かったわけですが、今回に限って言えば、左利きのセンタープレーヤーに代表されるように、スピーディなハンドボールが展開されました。

今大会は、全日本の気迫の前にどうすることも出来ませんでしたが、まだチームが若いので、今後の強化で、今までの高さとパワーに今回の速さが加わると、やはり日本の強敵になってくることは間違いないと思います。

そして、全日本はこの勝利で、勢いに乗り、ソウル・オリンピック出場権獲得に大きく近づいて行きました。

対シリア戦

高村誠一

第1戦で中国に快勝し、この勢いで今大会を突っ走ろうと、選手一人ひとりは非常に気合いが入っていた。第2戦、相手はシリア。対戦経験はないが、前日の試合ぶりでは少し力の差があるように感じた。自分たちのプレーを精一杯やって快勝しようと乗り込んだところで大きな問題が起こった。両チームのユニフォームの色が同じだったのである。なぜそうなったか。結論から言うとシリアが間違ったのである。ユニフォームについて事務局からの指示では、IHFルールにのっとり左側にエントリーされた国に色の選択権があり、第1戦は中国が左側にエントリーされていたので、中国が色を指定した。第2、第3戦は日本が左側にエントリーされていたので、日本は中国との試合の時点で第2、第3戦の色を指定し事務局に提出した。ところが、当日になってみると、シリアが日本と同じ白のユニフォームである。レフェリーは当然同じ色同士では笛が吹けないと言う。そこで登場したのがAHFの副会長である。今大会の運営上の数々のトラブルの根源であると思われる彼の「日本がユニフォームを変えろ。10分以内に変えなければ没収試合にする」の一言で日本はホテルまでユニフォームを取りに帰ることになった。ユニフォーム到着まで待っていられないということで、日本はヨルダンのユニフォームを借りて、予定より40分遅れで試合が始まった。国際大会で他国のユニフォームを着て試合をするという前代未聞の珍事件。私はこの時、悔やしいというか、情けないというか、何とも言えない気持ちでした。ユニフォームは前半途中で到着し、メンバーチェンジをしながらユニフォームを変えて、後半には全員ユニフォームがそろいました。帰国後の激励会の席でこの話を聞いたある人がこんな事を言いました。「それは、表彰式に国旗がないから他の国の旗を掲揚するのと同じだ」と。私たちはこれら多くのトラブルに巻き込まれながらも、逆にそれをバネにしてシリア戦も24対18で快勝した。

対パレスチナ戦

田口　隆

私たち日本チームとパレスチナとは、予選グループで、中国、シリアと共に4ヶ国が同じグループという事で、予選リーグの第3試合として戦いました。日本はその前に中国、シリアに連勝していたので、この試合も勝ち全勝としたいところでした。

私は、パレスチナというチームをこの大会に出場して初めて見たわけですが、私たちと比較して、体格的にも戦術的にも数段劣っているようでした。

そしていざ実際に試合をしてみると、日本の高く厚いディフェンスを前にすると、なかなか攻めて来ようとせず、ディフェンス時間が長くなり、逆に日本が攻撃すると、すぐにでもシュートチャンスがくるのでオフェンス時間が短いといったような具合でした。

スコアは前半16対4と、後半17対9でトータル33対13で勝ち、予選リーグを全勝で1位となりました。

また、この試合のレフェリーは地元ヨルダンのペアが吹いたのですが、ジャッジが相当あいまいで、ブロッキング、チャージングなどで退場といったようなケースもありました。やはり私たちとしては、レフェリーはヨーロッパの人に吹いてもらった方が安心して試合が出来ると思いました。

この試合のあと、カタール、韓国、クウェートと試合があって、結果オリンピックの出場権を得たわけですが、このパレスチナ戦は集中力を欠く時期だった事も含め、

この1勝も出場権を得る事の出来た一つの要因でありました。

対カタール戦

宮下和広

このカタール戦は4試合日となり、緊張感も少し解かれ気味だといえばそうかもしれない。

カタールといえば、アラブのチームの中でも3番目ぐらいの位置に当り、決して日本の相手にならないと思っていたのに、いざ蓋をあけてみるとそうでもなかった。

立ち上がり何かいま一つ気が入っていないというか盛り上がらず、ボーとしながらやっていた感じがする。やはりイージーミスが続出し、挙げ句の果てにはシュートも入らずそれがDFまで影響して訳がわからないシュートを入れられ、何だかわからないまま12対9で前半が終ってしまった。

ハーフタイムには気持ちのもっていき方だけとスタッフに注意を受け、もう1度全員で集中してやり直そうと意識づけ合い、後半に入った。カタールは相手ではなかった。みるみるうちに点差は開き、後半は23対3で快勝した。しかし、もし相手が韓国、クウェート、中国だったら前半で点をあけられ、勝負が決まってしまっていただろう。最初から後半のように我武者羅にやれば今の全日本にとっては一番いい結果が出る気がする。これからの試合は、相手チームを見かけだけで判断せず、無欲で60分間ガキみたいに一生懸命やらなければいけないと痛感したゲームだった。

対韓国戦

矢内　浩

日本としては、前々日の中国戦に勝ったことによって、精神的に楽になりオリンピックへすこし近づいたと思いながら、対韓国戦へと。ゲーム前のミーティングでも、韓国にも勝ってアジア選手権にも優勝して、日本へ帰ろうなど話し合っていました。

ゲーム内容については、前半は、一進一退の好ゲームで、全日本としては、これまで課題であったスタートの悪さが、このゲームでは見られず、選手全員精神的に強くなり、逞しくなったと思います。これまで自分たちが練習して来たことがゲームに十分出し切ることが出来たと思います。前半は12対11で日本の1点リードで終了。

後半は、10分ごろまでは前半同様、一進一退のゲームをしたが、韓国のシュートミスが多くなって来たところで、日本が抜けだし、3点リードまでいき、日本ペースでゲームをしましたが、レフェリーの笛一つでこれまで日本ペースだったゲームの流れが、韓国へかたむき同点にされ、日本も踏ん張って最後まで頑張ったが、レフェリーの笛がやはり韓国側有利であるため、日本側としてはどうしようもなく、4点差で悔しい負け方をしました。ゲーム後、スタッフから「勝負に勝ち、ゲームに負けた」と言われ、自分たちの力を信じて、最終戦のクウェートでも自信を持って頑張ってオリンピックへ行くことを全員で誓い合った。

対クウェート戦

藤井　泉

今日は最終戦。アジア選手権の最終戦であり、ソウル予選の最終戦でもある。またなにより、この試合に勝った方がオリンピックのキップを手中にできるという、これほど緊迫した戦いは私にとってかつて経験したことのないものであった。

試合は、予想通り一進一退の攻防となった。私自身やはり相当緊張していたらしく思うように体が動かず、今一つ積極性を欠いた感じだった。固さの残る日本チームは、まず先取点をとられそれを追った展開となった。が徐々に固さの取れた日本は、前半中ばから調子を取り戻し、それこそ点を取られたら取り返すというパターンが続き、前半を同点で終了した。前回のアジア大会で対戦した時は、前半点差を開けた状態からの追い上げによる展開だったが、内容的には日本が上回っていた。それが今回の対戦に関しては予想以上に強く、パワーハンドボールを主体に、速攻、ポストプレーで対抗、また、コーチが元ユーゴの監督らしく、パスからの次の動きなど相当鍛えられたチームになっていた。

そして後半戦。日本は中盤まで主導権を握り2～3点リードしていた。が、日本チームの再三の退場によってまた一進一退の攻防となった。そして後半の終盤、逆に1点リードを許してしまったが、最後日本チーム全員の気迫が相手クウェートの気迫を上回って2点差で勝った。

まさに辛勝であった。

しかしこの試合の勝利は、これからの日本チームをより強くさせる大きな意味を持っていると思う。

そして、この勝利に少しでも貢献できた事を心からうれしく思うとともに、今後の成長の糧としてがんばっていきたい。

アラブ諸国のハンドボール

奥田新治

今回、アジアハンドボール選手権及びオリンピック予選に参加して感じた事は、アラブ諸国が今まで以上にハンドボールに対して力を入れていると感じたし、また力をつけていると思った。

特に、対戦したシリアは、ソビエト人がコーチをしていたし、カ

タールはドイツ人、クウェートは、ユーゴ人がコーチを行なっていた。特に、シリア、クウェートとは接戦しているし、今後、各国に勝てる保障はどこにもないと思った。

アラブ各国は、積極的にヨーロッパからコーチを招き強化を進めている。私たち、日本のナショナルも強化合宿を続けてきたその結果がオリンピックの出場権の獲得につながったと思う。しかし、逆に考えれば、今まで以上に強化を進めて行かなければ、アラブ諸国に負ける可能性もあると思った。日本でも色々な面で世界に追いつけるように、日本だけのルールであるとかを考えられているが、果たしてそれが対アラブの各国であるとか対ヨーロッパの各国と対戦するときプラスになるのかと不安を感じている。アラブ諸国はヨーロッパからコーチを招き世界を目指している。一方の日本は、オリンピックには出場するが、日本のルールで国内はゲームを行なわなければいけない。ナショナルプレイヤーとして多くの不安を感じた大会であった。

開会式と閉会式

荷川取義浩

開会式と閉会式についてですが、ブラスバンドの人数が少なかったため迫力不足であったような気がします。

開会式の内容は、民族衣装を着た女性が、プラカードを持って入場行進を行ないました。後は、アジアハンドボール協会の方々のあいさつ、選手宣誓などがあり、解散しました。

オープニングセレモニーとして、民族舞踊や剣を使った踊り、それは昔の戦争を想わせる踊りでした。少し長い時間やっていたので、場内がシラけた感じがしました。

閉会式については、開会式と違い、男女別で行なわれ、表彰式を主に行なわれました。

やはり、各国（出場国全部）を集めて、メダルの授与などをやった方が、盛り上がったと思います。でもヨルダンの人々が拍手やかけ声などで盛り上げたのが印象に残りました。

予選を振り返って

立木浩二

3・2・1・0、「やったぁー」タイムアップの笛なんて聞こえなかった。拳を握り締め両手を高々と上げた。コートの中央に集まり、各選手と抱き合わずにはいられなかった。「ありがとう」息が詰まり、試合中の鬼のような顔とは違い、みんな目を真っ赤にして今にも泣き出しそうな顔だった。『よかった。勝ったんだ』

最終クウェート戦に臨むに当たり、今まで3年間の結果が、たった1時間のゲームで決まってしまうと思うと、恐い気さえした。最初は、やはりみんなガチガチで、一進一退のゲームが続いた。良いDFをしているが、最後には点を取られてしまう。

「ドンマイ、ドンマイ、1点取るぞ!!」

みんながしきりに頷く。ほとんどの観客がクウェートの応援で、ベンチの指示も全く聞こえない。残り5分までどちらに転んでもおかしくないシーソーゲーム。1つのミスも許されない。よく守り、よく攻めた我慢のハンドボール。最終スコア25―23――この2点が我々の結果すべてなのかも知れない。

今までの辛く苦しい経験が、無駄に終わらなくて良かった。みんな、本当にありがとう。そして、新たな目標である『ソウル』に向かって、全員で頑張ろう。

オリンピック出場権を獲得して

井藤英忠

ロス五輪が終わり、早いもので3年が過ぎ、ロス予選からは4年が過ぎてしまいました。私にとってオリンピック予選は今回で3回目になり、どれも大変な大会でした。今はソウルの切符を取る事ができ、ホッとしている所です。

試合は決勝リーグで韓国に敗れ、クウェートとの決戦になりました。後半残り10分まで同点で「この10分で3年間のすべてが決まってしまう」思った時と、2点をリードして3秒2秒1秒とタイムアップを聞き、全員走り出し抱き合い喜んだ瞬間が、まだ鮮明に頭に焼きついています。

この予選を突破するまでの3年間には、書き切れない、いろいろな事がありました。その中で日本代表として活動を通じ養ってきたものは、必ずこの先の試練にも役立つものと信じています。

この新チームになり、合宿、遠征などの繰り返しで、各企業の職場の方々やチームメイトなどには、迷惑ばかりをかけながらも、いつも激励していただき感謝しております。また、強化のために尽くして下さった日本協会をはじめ、ジャパンカップでの後援をして下さった東洋証券、ハンドボールファンの方々、全日本の先輩には勝てない時にもいつも暖かく応援して頂き、ほんとうにありがとうございました。ユーゴスラビアのイワン・スノイ氏、札幌の高橋ドクターにも日本チームのために力を貸して頂きありがとうございました。

いろいろな方々のご協力でソウルの切符を取る事ができました。

初めに「ホッとしている」と書きましたが、この感想を最後に、気分一新してソウル入賞目指し頑張る所存ですので、これからもご指導、ご声援をよろしくお願いし

ます。

ソウル・オリンピックへの抱負

橋本行弘

抱負と一言で言われても「オリンピックで金メダルを獲得するのが目標です」と抱負を語ってしまえばそれまでですが、それではあまりに抽象的で自分自身何をするのかがはっきりわからないので、ソウルで全日本男子が活躍するために自分はこれから何をするのかを自分自身のテーマにしてみたいと思っています。

私は将棋で言う「歩」になっていこうと思っています。歩は駒の中では一番弱いかもしれないけど、「歩のない将棋は負け将棋」といいます。「歩」になってチームが勝てるよう努力したいと思います。これは決して選手として試合に出れなくていいとか、自分は雑用とかを精一杯やろうという意味ではありません。むしろその逆です。自分が力となってソウルで活躍したいです。そのために、たとえば私はGKをしているので、他のGKと一種変わったGKになろうと思っています。タイプの違ったGKとしてチームの技術向上につなげ、さらに自分自身を磨き、チームの活性化へとつなげていきたいです。それが「歩」となる本当の意味です。そう「ALL FOR ONE ONE FOR ALL」「みんなが一人のために一人がみんなのために」といった気持ちです。

今はオリンピックの切符を手に入れたという事で、何か自分でも言っている事がよくわからないような文章になってしまいました。自分自身まだ抱負に関して不透明な部分がいくつかありますが、チームがひとつになってオリンピックで金メダルを目指すという事に最終結論がどうしても到達してしまいます。これはあまりに大きな目標なだけに、挫折し、崩れかけるかもしれませんが、そんな時には手をかして下さい。一生懸命頑張りますので応援よろしくお願いします。

オリンピックへ向けての抱負

首藤信一

今回、ヨルダンで開催されたソウル・オリンピックアジア予選を振り返り、来年のオリンピックへ向けての目標をあげて見たいと思います。まず、自分の攻撃力の力不足を痛感し、シュート技術及び上腕の筋力アップを目標にしたいと思います。具体的には、ゲームであたる外人を考え、ディフェンスを利用したシュートや速い位置取りから、クィックで打てるようにしたいと思います。このために、合宿、遠征などで、相手ディフェンスとの間合いや手の出す角度を色々を変化させ、ためしていきたいと考えています。筋力アップの方は、相手ディフェンスに多少おされても、上腕だけで打ち抜けるように最後のスナップを強くしていきたいと思いますし、位置取りを速くするために、フットワーク強化最初の一歩の瞬発力を高め、目標をクリアしたいと思います。

そして今、私の力不足のために、西山さんと二人で45度を回していますが、これを、何とか少しでも長くコートに立てるように攻撃力、ディフェンス力の安定を図り、ゲームスタミナのアップを目指し頑張りたいと考えています。この事は、西山さんの爆発力を高めチームにとってもプラスの事だと考えています。これからは、オリンピック代表候補として、自覚を持った行動をし、一つでも多く勝てるようにソウルまでの1年間を頑張っていきたいと考えています。

オリンピックに向けての抱負

山本興道

ソウル・オリンピックアジア予選も終わり、世界に対して目を向けることになり、新たな目標に向かってスタートすることになりました。過去4年回のオリンピックに出場した男子ハンドボールですがやはり世界の壁は厚いようでした。

ソウル・オリンピックまであと1年、まず個人的な技術を身につけ世界に通用するフェイント力、大きな体に当たり負けしないディフェンス力を柱に練習に励んでいきたいと思っております。また、速攻でも相手チームに走り負けしないよう速攻での得点力をつけるよう頑張りたいと思います。

ヨーロッパではここ一番という試合にはものすごい集中力で戦ってきます。積極的なプレーやルーズボールに対しての執着心はものすごいものがあります。そういったちょっとした違いが点数の上で変わってきます。特にオリンピックのような大会では大事になってきます。こうした基本的な面で最低限相手に負けぬよう実力を出し切り、過去に練習したすべてを試してみたいと思います。

目に見えない精神的な面でも気迫で負けぬよう、ソウル・オリンピックまであと1年、世界のチームにアタックして、ナショナルプレイヤーとして恥じぬよう戦いたいと思います。

オリンピックに向けての抱負

玉村健次

さる8月20日より10日間ヨルダンで行われた第4回アジア選手権兼ソウル・オリンピックアジア予選で日本は、中近東の国々のレベルアップなどもあり苦戦しましたが、見事オリンピック出場権を獲

得する事出来ました。

日本は、過去にミュンヘン、モントリオール、ロサンゼルスの3大会に出場していますが良い成績を残す事が出来ませんでした。

今回もすでに組み合わせも決まり、日本は、東ドイツ、ハンガリー、スペイン、チェコスロバキア、韓国と強敵ばかりとの試合になり、大変苦しい状況に置かれていますが、ここでもう一度オリンピックに向かってチーム一丸となって一戦でも多く勝つように頑張らなければいけないと思います。

自分としても、夢であるオリンピック代表選手を目指しオリンピックまでの約1年をレベルアップを図り頑張りたいと思います。

持てる力を十分に発揮

女子監督・井　薫

ソウル・オリンピックの出場をかけた、アジア選手権大会での中国戦、本当に最後のもうひと押しの詰めが足りず、日本のハンドボールにとって大変価値のあるゲームを失いまして、ご声援をいただきました多くの方々や、ナショナルチームの強化にあたり、お世話になりました皆さまのご期待に応える事が出来ず、申し訳なく思います。

同時に私は、このゲームで見せてくれた選手諸君の気力をこえた頑張りと、チーム力アップに尽力してくれた二人のコーチの手腕を誇りをもって皆さまにご報告したいと思います。

ゲームの前のミーティングでは、

①失敗（抜かれる事）を恐れないディフェンスの詰め。

②速攻の際に中国が狙ってくる速いつぶしに対し、それを上回るスピードがあるパスでのつなぎ。

③やや浮き気味の中国のディフェンスに対し、サイドプレイヤーの果敢なフェイントによるカットイン、ゆさぶり。

④アシストプレイヤーの横の流れや、ブロックに合わした、アタッカーのたての動きからの積極的なゴールの狙い。

⑤勝負所でのフォーメーションの狙いと確実なコンビ。

などを指示、勝利は25点先取した方が握るであろうとの予想も混え、大切なゲームの立ちあがりを託すのはやはり場数を踏んだベテランであるべきとの意見を入れて、コートにおくり出しました。

結果は24対24のドローで、延長に入る事になり、その意味においても、ベンチの読み通りにゲームは展開してゆきましたが、前半8対4の劣勢の中でゲームの流れを変えたプレイは起用してすぐに放ったチーム最年少の比嘉のフリースローからのふりむきざまのアンダーシュートで、面白い事にこのプレイ、国内の練習やゲーム、ヨルダンに入ってからの練習の中でも、一度も成功しなかったものが、このぎりぎりに追い詰められた場面で決まったものですから、先輩プレーヤーたちも大喜びで、すっかりリラックス、そうなるとディフェンスの踏み込みも鋭くなり、中国の攻撃のリズムの乱れを突いての速攻も小気味よく出始め、セットからのスカイプレイなども含めて、いろんな形で得点をするのですが、流石に中国も、左腕の若きエース、李の強打を中心にゆずらず、互角のまま残り1分の大詰めの攻防にもつれ込んで行く訳です。

そして残り1分を、さらに再度にわたる延長を、前田、岩村、葛生を中心に選手たちは見事に闘い抜きました。

帰国した今、静かにこのゲームをふりかえる時、選手のみんなに申し訳なく思う事は、7月から8月にかけての大切な調整期間に、国際ゲームの体験を積ませたかった事で、それはゲーム感や、ゲームのスタミナの部分で不可欠であり、大会が3ヶ月あまり早くなった事で生じた、日程の狂いを修正して、もう一歩、つまり万全を期する形で、中国戦に臨ませたかったと思う事です。

日本チームの滞在期間中、いろんな形で、お世話をいただいた、日本人会の方々、そして男子チームのみんなの大声援、どんなに心強かった事か、本当にありがとう。

そして僕たち以上に、苦しいゲームを強いられ、それでも見事に勝ちぬいた男子チーム、オリンピックの男女揃っての出場の念願は果たせなかったが、君たちの勝利の一瞬は、スタンドで万感の思いの中で、万才を、そして日本人会みなさんと肩を抱き合って喜びました。

最後に、これまでの数多い遠征の中で、今回ほどスタッフに、ドクターに、通訳に、そしてボランティアの人々に恵まれたのは、初めての体験で、とくにチームドクターの存在の意義の大きさを改めて強く感じました。

それらの人々にささえられ、私たちは結果において敗れはしましたが、一番大切なゲームで持てる力以上のものを発揮出来た事に胸をはって帰国致しました。

中国戦を振り返って

前田重子

周りの人たちから、よくやったと言われ、自分でもやれるだけの事はやったんだ、悔いはないと言いきかせてみても、しばらくはダメでした。でも今、時間を置いて冷静になって考えてみると、あそこまで勝負できた事がはっきり言って不思議だったのかもしれません。国内での直前合宿で、東女体や筑波大とやらせてもらったりしていた時の全日本チームの状態か

ら考えたら天と地ほどの差があったと思います。

試合を振り返ってみると、随分と余裕のない試合展開をしていたと思います。まず試合開始すぐに相手の連続得点を許してしまい、4点程リードされてからやっと動き出したという感じでした。結局この立ち上がりのまずさが、この試合日本が勝てなかった最大の原因だと思います。前半終了間際に1点差に追い上げたムードのまま後半は点が取れていてリードしてはいましたが、やはり大切な場面で結構ミスがあり、あと1歩、あと1点のリードができず、すぐに同点に追いつかれていました。

ここのところ、あと1点のリードができないところが、私たちの弱点だったのです。今までこのチームで僅かの点差で競って勝った試合というのは一度もありませんでした。もし一度でもそういう緊迫した試合を経験していれば、冷静に余裕をもって試合ができたのではないかと思います。

メンバーの心に余裕をもたせるのはキャプテンである私の責任であったはずなのですが、私自身、自分の心のコントロールができず、そんな私の焦りがみんなに伝わってしまったのではないかと思います。今となってはやり直す事もできず、悔しがっても後の祭です。この気持ちをこれからの日本のハンドボーラーに伝えていくのが私たちに残された仕事だと思っています。二度とこんな悔しい想いはして欲しくありません。

ディフェンスで感じた事

岩村英子

ディフェンスは、位置取り、つめ、読みが基本です。攻撃に対し的確な位置を取り、つめる事で相手の動き、シュートを止め、そして相手がどうプレーするかを読む事で、いわゆる良いディフェンスとなるわけです。

今回、ヨルダンの首都アンマンで開催されたアジア選手権兼オリンピックアジア予選で私たち女子は、4ゲーム行ってきました。何回かの合宿で、チームディフェンスの約束事として、ロングシュートは流しのコースを打たせるという事で、練習を重ねてきました。にもかかわらず、どのゲームでも失点が20点以上なのは、やはり打たれたという結果になっていると思います。国際ゲームになると、体格のハンディがあり、プレーをさせてしまえば負けです。だから9m内に入れさせない事が大事で、フットワーク（足）だけでなく技（手）も必要になるのです。他国のトップレベルのチームは、ロングシュートに対するつぶしがシビアで、結局攻撃は、ディフェンスに打たされるというパターンで終わってしまっています。フットワークの足さばきの軽さ、そしてポストを前へ前へと出し、9m内に入れさせないようにもしてます。

また、今回の大会で感じた事としては、このゲームでは誰がメインシューターか、どこから攻撃が始まっているかを早く読む事が大事だし、精神面でも、守るぞ、守れるんだという気持ちが大切だという事です。国際ゲームでは、「喋る」という利点も大いに利用するべきだと思いました。今後、国際ゲームをしていく中で、日本も得点は他国同様とれるようになってきてるので、もっと防御面にも重点をおいていく必要があるのではと実感しました。

ヨルダン遠征

中島恵美子

オリンピック予選がヨルダンで開かれるということを知って、あわてて地図を広げてみたのは、私だけではないと思います。とにかく今回の遠征が初めてという私にとって、国柄もわからず、ましてや平均気温が42度と聞かされた時には、どんなに不安になったことでしょう。

雲が出ると異常気象だといわれるここの気候は、たしかに青空の広がる日が多かったのですが、日本のような湿気がない分、快適に過ごすことができました。また、衣食住に関して日本との相違が大きく、肌を出してはならないなど、興味を引かれる一面もありました。

このような環境の中で開かれた大会、国際経験のなかった私にとって、その感動はどんなに大きかったことでしょう。トップレベルチームのスピード・パワー・テクニックのすべてが備わった、迫力あるプレーを生で観ることができ、これからの私に大変強烈な刺激になりました。女子では韓国がやはりすばらしく、私の中のイメージがぐっと広げられたような気がします。

このような機会を与えて下さったことに感謝すると共に、これらの経験を今後に生かしていけるようにしていきたいと思います。

高橋先生と初めてお会いして

葛生豊子

今回、大会にあたり全日本女子も男子と共に専属の医師に見ていただく事ができ、健康に関しての不安は全くなく、大会を迎える事ができました。また、この大会の大きな目的である「中国戦」負けてしまいましたが、心に残る好ゲームができた事も高橋先生の御指導が大きく私たちにプラスになっております。

先生の存在が、健康管理という事だけでなく、「勝つためにはどうすればよいか、勝つために自分がいる」というような強い意志を持っている方なのですばらしいと思いました。先生も初めは、全日本女子を見るのは初めてで戸惑いもあったようですが、先生のお人柄ですぐにスタッフのひとりとして活躍されてました。選手一人ひとりの性格をもつかみ、相談にのっていただいたり、励まされたり、選手には試合に全部が集中できるように活動してくださいました。

私は、全日本女子の健康管理をまかせられていましたが、結局私も選手なので全部が全部に気使う事ができず、最小限「選手のけが、体調チェック」その後の処理を監督に相談という具合で万全を期す る事はできず、また、選手たちも我慢してしまう所もありました。しかし、高橋先生のお蔭で「少しの事でも夜中でも何でも遠慮なく言って下さい」と言って下さったので、安心して体調管理ができ、中国戦を迎える事ができました。

また、トレーニング、試合ができるようにテーピングなど、そして終わった時に故障があったら治療、マッサージをして下さいました。男女共だったので大変だったと思いますが、選手がコートで最後までプレーできるように頑張っていただきました。そして大切な試合の前には、緊張せずに試合ができるようにと先生の経験話をして下さったり、一人ひとりに声をかけて励まして下さった先生に感謝してます。

第9回東日本学生選手権

早大と東女体大が優勝

〈男子〉

▼予選リーグ

○Aブロック

早大 38－16 北大
早大 38－13 山形大
早大 40－9 芝浦工大
北大 21－12 山形大
北大 33－12 芝浦工大
山形大 27－20 芝浦工大

〔順位〕①早大②北海道大③山形大④芝浦工大

○Bブロック

日体大 19－15 岩手大
日体大 27－17 東学大
日体大 37－10 横浜商大
岩手大 24－24 東学大
岩手大 35－23 横浜商大
東学大 37－15 横浜商大

〔順位〕①日本体育大②東京学芸大③岩手大④横浜商科大

○Cブロック

国士大 37－10 福井大
国士大 28－14 明大
国士大 29－14 福島大
明大 20－11 福井大
福島大 31－23 福井大
明大 21－9 福島大

〔順位〕①国士館大②明治大③福島大④福井大

○Dブロック

日大 42－10 北教大函館
日大 38－11 富山大
日大 36－11 東理大
北教大函館 25－13 富山大
東理大 33－17 北教大函館
東理大 28－22 富山大

〔順位〕①日本大②東京理科大③北海道教育大函館分校④富山大

○Eブロック

慶大 20－20 函館大
函館大 37－12 東北大
函館大 29－9 東大
慶大 36－13 東北大
慶大 31－9 東大
東大 26－25 東北大

〔順位〕①慶応大②函館大③東京大④東北大

○Fブロック

筑波大 17－15 東北学院大
東北学院大 32－19 金沢工大
東北学院大 32－20 横浜国大
筑波大 38－14 金沢工大
筑波大 38－7 横浜国大
横浜国大 19－16 金沢工大

〔順位〕①東北学院大②筑波大③横浜国立大④金沢工大

○Gブロック

法政大 39－8 信州大
法政大 21－16 順大
法政大 26－17 拓大
順大 31－13 信州大
拓大 24－19 信州大
順大 29－10 拓大

〔順位〕①法政大②順天大③拓殖大④信州大

○Hブロック

中大 23－14 金沢大
東海大 17－15 金沢大
金沢大 24－15 東北福祉大
中大 18－16 東海大
中大 33－17 東北福祉大
東海大 45－14 東北福祉大

〔順位〕①中央大②東海大③金沢大④東北福祉大

▼インカレ出場決定戦

函館大 47－13 東京理科大
筑波大 23－18 明治大
順天堂大 30－23 北海道大
東京学芸大 25－22 東海大

▼決勝トーナメント1回戦

早大 45（23－12、22－10）22 東北学院大
中大 29（14－13、15－11）24 慶大
日大 33（13－13、15－15、2－1、3－3）32 国士館大

▼準決勝

日体大 34（16－14、48－7）21 法政大
早大 31（16－10、15－10）20 中大
日体大 25（11－9、14－11）20 日大

▼3位決定戦

日大 23（15－8、8－12）20 中大

▼決勝

早大 23（12－9、11－11）20 日体大

〈女子〉

▼予選リーグ

○aブロック

東女体大 39－7 山形大
東女体大 37－8 千明大
千明大 26－13 山形大

〔順位〕①東京女子体育大②千葉明徳短大③山形大

○bブロック

筑波大 28－8 茨城大
筑波大 44－4 都留文科大
茨城大 12－6 都留文科大

〔順位〕①筑波大②茨城大③都留文科大

○cブロック

日体大 37－9 岩手大
日体大 31－12 東学大
岩手大 13－12 東学大

〔順位〕①日本体育大②岩手大③東京学芸大

○dブロック

日女体大 39－6 富山大
日女体大 20－15 東海大
東海大 33－12 富山大

〔順位〕①日本女子体育大②東海大③富山大

▼準決勝

日体大 31（14－10、17－11）21 日女体大
東女体大 30（14－11、16－8）19 筑波大

▼3位決定戦

筑波大 27（16－3、11－7）10 日女体大

▼決勝

東女体大 31（16－10、15－13）23 日体大

Mizuno
THE WORLD OF SPORTS

SINCE 1906
ボクら、万有引力とたわむれる

コンケーブ意匠
ヘリボーン意匠
サイドモーション サポートリブ
ピボットリング
フレキシブルゾーン

パワー効率重視。コートのマシン〈ランバード〉

室内コート専用のマルチファンクション ソール。

前後左右、あらゆる方向へのトラクション性にすぐれたヘリンボーン意匠をベースに、かかとには着地時の衝撃を吸収、分散するコンケーブ意匠を配置。また、ソール前半にはパワーロスを防ぐサイドモーション サポートリブ、回転運動の軸となるピボットリングをはじめ、屈曲性を高めるフレキシブルゾーンなどをレイアウト。多様なプレーに対応するソールパターンが生まれました。

〈ランバード〉ハンドボール シューズ
《ウイング ショット》 ¥12,000
- 甲/牛革 ● 補強材/人工皮革 ● 底/ラバー ハーフ シェル ソール
- カラー/**16KH-1527** ホワイト・レッドにメタリックネイビー ライン
  /**16KH-1562** ホワイトにレッド ライン

〈特別寄稿〉

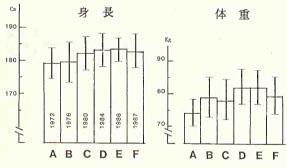
オリンピックに出場した男子ハンドボール選手の体力の現状と今後の課題について

阿部徳之助　（自治医科大学）
竹 内 正 雄　（星薬科大学）
西 山 逸 成　（防 衛 大 学）

1．はじめに

日本体育協会スポーツ科学研究所ならびにスポーツ診療所は、ＪＯＣ、各競技団体の協力を得て、オリンピックに出場する日本代表選手につき体力測定と健康診断の結果を報告している。[1][2][3][4]男子ハンドボール競技では、ミュンヘン（1980）、モントリオール（1976）、モスクワ（1980）、ロサンゼルス（1984）の大会に参加した。この度は、ソウル・オリンピック大会（1988）の出場権を得ることができた。

これらの測定報告の資料をもとに、競技力を高めるための具体的な強化指導方策を検討・実施することはハンドボール競技の強化策の改善に役立たせたい。

2．方　法

(イ)　対象　オリンピックに出場する日本代表選手

(ロ)　日時　オリンピック大会出場の約３ヶ月前に測定実施している。

(ハ)　場所　日本体育協会スポーツ科学研究所（1972、1976、1980、1984）、自治医科大学（1986）、中京大学（1987）。

(ニ)　測定項目　体格、身長、体重、機能、（握力、背筋力、脚屈伸筋力（cybex machine）、腕屈伸筋力（cybex machine）、反復横とび、垂直跳、最大酸素摂取量）

3．結　果

図-１・男子オリンピック選手の体力（1972～1987）図-２・cybex machine によるオリンピック選手の脚屈、伸筋力、図-３・cybex machine によるオリンピック選手の腕屈・伸筋力を示した。

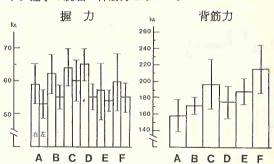
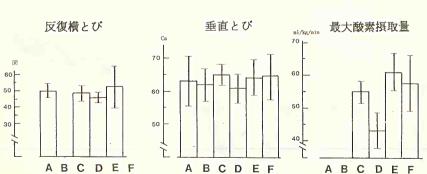



図１　男子オリンピック選手の体力(1972~1987)

身長については、ミュンヘン（1987）179.0±4.5cm モントリオール（1976）179.0±6.0cmでほぼ同じ値を示し、モスクワ（1980）182.0±5.2cm、ロサンゼルス（1984）183.0±5.0cm、ソウル予選182.0±4.5cmとほぼ同じ値であった。ミュンヘン初出場の15年前と比べてみると平均身長は、3cmの向上がみられている。体重では、ミュンヘン74.0±3.7kgでもっとも低く、その後増加傾向を示し、アジア大会82.0±5.0kgがもっとも高く、ミュンヘンの比較でみると統計的に有意な差を示した。(P＜0.01)

体力

握力（右）についてみると、ミュンヘン59.0±6.0kg、モントリオール63.0±5.0kg、ロサンゼルス65.0±5.0kg、とミュンヘンの値と比較してみると、統計的に有意な差を示した（P＜0.05)。その後はアジア大会、さらにソウル・オリンピック予選の値は有意に低下傾向を示している（P＜0.01)。

握力（左）についてみると、ミュンヘン53.0±4.5kg、でその後僅かながら増加し、モスクワでピークに達し、その後は有意な低下を示している（P＜0.05)。

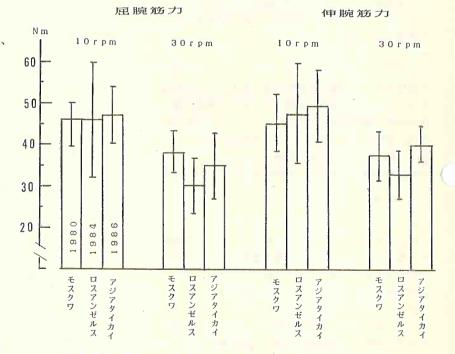
これらの左右の握力をみると、増加および低下はほぼ同じ傾向であった。

背筋力では、ミュンヘン159.5±20.0kg、で最も低い値を示したが、その後は

図2　Cybexにおけるオリンピック選手の筋力

図3　Cybexにおけるオリンピック選手の筋力

ゆるやかな増加傾向を示し、ソウル予選で213±30kgとこれまでの最も優れた値をしめした。

cybex machine による屈伸腕筋力の10 rpm と30 rpm では、各大会と比べてほとんど差はみられない（図-3)。一方 cybex machine による脚屈伸筋力をみると、10 rpm と30 rpm において、モスクワが最も優れた値を示しているが、その後著しい筋力の低下傾向を示している。

反復横とびでは、ミュンヘン50±4.0回であり、これをほかの大会と比べてみるとほとんど同じ水準であ

った。

垂直とびでは、平均値が63㎝から65㎝で伸びがみられない。

最大酸素摂取量では、モスクワ55.0±3.5 ml/kg/min の値からロサンゼルス46.0±5.5 ml/kg/min と有意に低下している（$P<0.01$）。その後はアジア大会をピークにして、再び低下を示している。

4．考　察

(1)　体格

身長では、図１に示したように、ミュンヘン・オリンピックの初出場以降から、ソウル予選までの15年間で僅か３㎝の増加を示したにすぎない。世界のトップクラスのチーム平均（1981.ジャパンカップの調べ）をみると、190㎝以上にも達しており、まさに世界のハンドボールは、“高さとパワーのハンドボール”という現状を認識せざるを得ない。ハンドボール競技の特性からみても長身は有利であることは否定できない。したがって、日本が世界のトップクラスに入るためには、大型チームづくりが急務であろう。その対策として、列強国が長年着手してきたように長身選手のジュニアを発掘し、長期間にわたる継続的・計画的な体力トレーニングを行うことが不可欠の条件である。選手の養成には、スポーツ・コーチ、フィットネス・コーチ、スポーツ・トレーナー、スポーツ・ドクター、トレーニング・ドクター、スポーツ・カウンセラーなどの強化スタッフの協力体制が必要であり、これらの強化スタッフたちの密接な連携をとり選手の健康管理、体力管理、競技分析、メンタルマネージメント等を総合的に掌握し、個人別トレーニング処方作成にいたるまで、組織をあげての取り組みこそが世界のトップレベルに追い付くための抜本的解決策ではないだろうか。

(2)　体力

筋力

握力：握力がボールを片手に握ってプレーする指標であることからも、幅広い攻撃にも繋がることで有利でもある。また、我々が調べた握力とボール投げには密接な関係にあることから、握力の強い選手はボールを遠くへ投げることやスピードのあるボールを投げることもできることから握力を高めることはハンドボール選手の競技力を向上させる面で重要な要因である。

図１にみられる握力をみると、ミュンヘン59.0kgから徐々に増加傾向を示し、ロサンゼルス65kgが最大値で、その後アジア大会を終えてソウル予選では８kg低下している。

世界のトップチームであるユーゴ61kg、西独63kg（1987ジャパンカップ調べ）と日本59kgであり、その比較では日本は世界の水準にあるといえる。日本はこの世界のトップチームの値を維持してほしいものです。

背筋力：全日本チームの具体的強化目標の一つとして、全身の筋力をみる指標として用いられている背筋力を自己の体重の3.0倍とすることをスローガンにしたトレーニングを呼びかけてきた。その結果、ソウル予選では50％（1987）の選手が、体重の３倍の筋力値を示し着実に効果をあげている状況がみられた。

世界のトップクラスのチームの背筋力は、西独200±24.9kg、ユーゴ219±22.8kgで、全日本チームとほぼ同じ水準である。

脚屈・伸筋：筋の収縮速度を一定に制禦して筋力を発揮させることのできる cybex machine を使用して測定したものである（図２）。

これによると、モスクワが最も高い値で、以降は脚の屈伸筋力の著しい低下傾向を示しているといえる。

垂直とび：下肢筋パワーの指標としての垂直とびを測定している。これは垂直方向にどれだけ重心を持ち上げられるかをみている。ハンドボール競技では垂直とびのほかに、ジャンプシュートのような助走させてどこまで高く指先がとどくかということをも測定し検討する必要があろう。

図１にみられるように、モスクワ65±3.5㎝をピークに、15年間ほとんど変化がみられていないことからジャンプ力の向上がなかったといえる。この傾向は、脚屈伸筋力の低下と一致しており、下肢筋パワーの向上をはかるための今後の筋力トレーニングに期待したい。

ジャンプ力の強化をはかっている日本バレーボールチームでは、世界のトップレベルチームの垂直とびを、80㎝以上と推定し、その目標値に近づくためのトレーニングを積極的に行っている。

日本バレーボール協会では、ジャンプ力を高めるため研究を盛んに行っており、バレーボール選手の全日本チームが１年間（1981）8.8㎝、また、５ヶ月間（1980）７㎝、７週間（1981）7.1㎝の向上した報告もある[7]。

ハンドボール競技においても世界の大型化に対応するためには、バレーボール選手と同水準のジャンプ力を身につけることが必要である。

さらに、ジャンプ力を向上させるための研究を進めていかなければならない。

ハンドボール競技は、近年のゲーム展開をみると、スピードが一段とアップされ、それと同時に運動強度も増加してきている。ゲーム展開を有利に進めるためには、60分間へばることなく、相手チームの動きに対応するときに日本チームの特性を発揮するために走り続けることのできる全身持久力が必要となる。ハンドボールの持久力とは、長距離走者の持久力とは異なるものである。マラソン走者の競技力は明らかに有酸素持久力に左右されるが、ハンドボールの選手はさらに

適切にトレーニングした無酸素持久力が必要であろう。したがって、ハンドボール選手に要求される持久力は、ハンドボール競技の特性からみると、すぐれた有酸素パワーと無酸素パワーを同時に備えていなければならないことになる。これは攻撃や防禦を行うための不規則な連続的な動きから要求される走力によるものである。

さらに、ハンドボール競技中の心拍数の推移を記録した結果を図4に示した。

これをみると、S.M選手、K.Y選手（全日本選手）は最大酸素摂取量の75～90％近い運動強度で試合を行っており、かなり激しい運動をくり返し継続している状況がみられている。

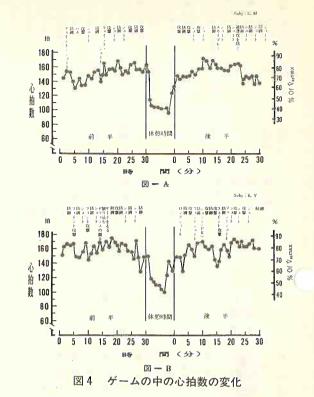
これらの持久力は最大酸素摂取量の測定で知ることができる。最大酸素摂取量とは、激しい運動中に取り込むことのできる酸素量の最大値を測定したものであるので、この値が大きい選手は全身持久力が高いことになる。

ハンドボール選手の最大酸素摂取量をみると、ロサンゼルスが最も低く、その後アジア大会、ソウル予選と増加はしているが、他の球技選手をみると、日本サッカー選手の最大酸素摂取量では、55～65 ml/kg/min であり、とくにすぐれた選手は70 ml/kg/min に達している[5]。

バスケット52 ml/kg/min、ラグビー52 ml/kg/min の値である[6]。このように、ハンドボール選手の最大酸素摂取量は他の球技選手と比較しても低く、もっと高める必要があろう。

これからのトレーニング計画の中の重視点として、有酸素パワー、無酸素パワーを高めるトレーニングも積極的に取り入れ、よりよい効果をあげることを期待したい。

図4　ゲームの中の心拍数の変化

〔文　献〕

1）No Ⅸ 第20回ミュンヘン・オリンピック日本代表選手体力測定報告、昭和47年度日本体育協会スポーツ科学研究報告、1～98、1972.

2）第21回モントリオール・オリンピック大会日本代表選手体力測定報告、昭和50年度日本体育協会スポーツ科学研究報告、1～107、1976.

3）No Ⅶ わが国における代表的な競技選手についての健康診断・体力測定報告、昭和55年度日本体育協会スポーツ科学研究報告、1～47、1980.

4）第23回ロサンゼルス・オリンピック大会日本代表選手健康診断・体力測定報告、昭和59年度日本体育協会スポーツ科学研究報告、1～62、1984.

5）浅見俊雄他：スポーツの科学的研究、レビューシリーズ1、サッカ・新体育社、67―73、1981.

6）わが国における代表的な競技選手についての健康診断、体力測定報告（最大酸素摂取量）、昭和55年度日本体育協会スポーツ科学研究報告、7―8、1987.

7）豊田博他：ジャンプ力向上に関する研究、―階段かけ上がりによるトレーニング効果―昭和56年度日本体育協会スポーツ医科学研究報告、39―59、1981.

各地の記録から…

東北

第39回岩手県民体育大会

（7月18～20日／岩手大学）

〈成年男子〉

▼1回戦

花巻ク 61―20 鵬ク
岩手大 59―18 自衛隊
花巻送球会 35―27 二戸ク
白亜ク 53―10 岩手医大
岩手フェザント 34―20 いわいク
石桜サブク 31―19 欅ク
岩手教員ク 50―17 日立水沢
盛岡商友会 43―25 志高ク

▼2回戦

花巻ク 33―27 岩手大
白亜ク 53―10 花巻送球会
岩手フェザント 34―30 石桜サブク
岩手教員ク 25―22 盛岡商友会

▼準決勝

花巻ク 25―24 白亜ク
岩手教員ク 35―30 岩手フェザント

▼決勝

花巻ク 35（20―9, 15―11）20 岩手教員ク

〈成年女子〉

▼1回戦

岩手桐花ク 36―2 生活学園ク
白梅三英実会 35―8 花巻ク

▼準決勝

岩手桐花ク 20―14 ギャロップレディーズ
白梅三英実会 26―11 岩手大

▼決勝

白梅三英実会 24（9―10, 15―7）17 岩手桐花ク

〈少年男子〉

▼1回戦

盛岡南 31―17 久慈
一関工 17―6 福岡工
大迫 29―9 一関一
西和賀 30―22 水沢

▼2回戦

盛岡一 39―22 盛岡南
釜石南 24―20 宮古
盛岡商 23―19 生活学園
花巻農 37―23 一関工
花巻北 31―10 大迫
久慈山形 20―14 一戸
岩手 32―24 福岡
盛岡四 57―17 西和賀

▼3回戦

盛岡一 25―11 釜石南
花巻農 21―9 盛岡商
花巻北 不明 久慈山形
盛岡四 31―12 岩手

▼準決勝

盛岡一 21―15 花巻農
盛岡四 25―22 花巻北

▼決勝

盛岡一 28（14―14, 8―8, 1―0, 2―3, 2―3, 1―0, 2 PTCO）28 盛岡四

〈少年女子〉

▼1回戦

盛岡白百合 19―13 黒沢尻南
一戸 16―8 宮古
向中野学園 12―11 平舘

▼2回戦

盛岡二 13―9 盛岡白百合
花巻農 13―12 盛岡南
岩手女 11―6 盛岡四
花巻南 24―4 一戸
釜石南 23―3 大原商
盛岡三 15―4 久慈山形
水沢 11―8 岩泉田野畑
花巻北 13―4 向中野学園

▼3回戦

盛岡二 42―3 花巻農
花巻南 15―5 岩手女
釜石南 12―6 盛岡三
花巻北 23―2 水沢

▼準決勝

盛岡二 25―6 花巻南
花巻北 24―9 釜石南

▼決勝

盛岡二 14（6―5, 8―4）9 花巻北

第16回東北中学校大会

（8月2、3日／野辺地町立体育館、野辺地高校体育館）

〈男子〉

▼予選リーグ

○A組

荒川中（青森） 19―11 高砂中（宮城）
荒川中 35―11 東根一中（山形）
高砂中 31―13 東根一中

○B組

喜久田中（福島） 18―13 中田中（宮城）
喜久田中 20―10 下小路中（岩手）
中田中 24―12 下小路中

○C組

厨川中（岩手） 22―10 油川中（青森）
厨川中 21―8 信夫中（福島）
信夫中 24―14 油川中

▼決勝リーグ

喜久田中 25（17―6, 8―9）15 荒川中
喜久田中 22（12―9, 10―5）14 厨川中
厨川中 22（13―8, 9―8）16 荒川中

（順位）①喜久田中②厨川中③荒川中

〈女子〉

▼予選リーグ

○D組

二瀬中（福島） 16―12 浦町中（青森）
二瀬中 30―5 東根一中（山形）

浦町中 27－7 東根一中
○B組
六郷中（宮城） 16－10 泉中（福島）
六郷中 26－8 滝沢南中（岩手）
滝沢南中 12－10 泉中
○C組
中田中（宮城） 17－10 厨川中（岩手）
中田中 15－12 郡山第一中（福島）
厨川中 12－5 郡山第一中
▼決勝リーグ
二瀬中 12〔5－5 7－4〕9 六郷中
中田中 13〔8－4 5－7〕11 六郷中
中田中 17〔14－7 13－3〕10 二瀬中
〔順位〕①中田中②二瀬中③六郷中

関東

千葉県民大会（国体予選）

（7月12、22、23日／松戸秋山高、東邦大付東邦高）

〈成年男子〉
▼1回戦
出光千葉 37－26 海自下総
小金ク 22－16 若潮ク
▼準決勝
千葉教員 45－18 出光千葉
若潮ナッツ 32－28 小金ク
▼決勝
千葉教員 30〔14－10 16－11〕21 若潮ナッツ

〈成年女子〉
▼決勝
千葉ク 12－0 和洋ク

〈少年男子〉
▼1回戦
船橋旭 14－12 我孫子
東京学館 23－9 小金
二沼学舎沼南 31－7 市川西
流山中央 17－4 市原
若松 21－13 戻総学園
柏南 19－4 渋谷幕張
市川 34－10 泉
佐原 20－12 松戸六実
東京学館浦安 24－10 東葛飾
木更津 28－11 市立松戸
柏 21－6 鶴舞商
国府台 25－15 京葉
船橋東 22－19 沼南
▼2回戦
千葉選抜 29－6 船橋旭
二沼学舎沼南 11－10 東京学館
若松 15－13 流山中央
八千代 13－10 柏南
市川 25－12 佐原
東京学館浦安 28－12 木更津
国府台 23－13 柏
東邦 30－13 船橋東
▼3回戦
千葉選抜 25－6 二沼学舎沼南
八千代 23－19 若松
市川 21－12 東京学館浦安
東邦 19－8 国府台
▼準決勝
千葉選抜 17－11 八千代
市川 21－12 東邦
▼決勝
千葉選抜 25〔10－7 15－4〕11 市川

〈少年女子〉
▼1回戦
佐原女 21－7 柏南
▼2回戦
東邦 17－5 渋谷幕張
昭和学院B 25－7 和洋国府台B
流山中央 18－12 和洋国府台A
昭和学院A 23－3 佐原女
▼準決勝
昭和学院A 38－1 東邦
昭和学院B 25－16 流山中央
▼決勝
昭和学院A 21〔7－2 14－6〕8 昭和学院B

埼玉県高校技術研修会（高校1年生大会）

（8月22、24、25日／筑波大学附属坂戸高校）

〈男子〉
▼予選リーグ
○A組
浦和実 26－2 越谷西
浦和実 43－0 三郷北
越谷西 10－6 三郷北
○B組
狭山 15－8 春日部工
狭山 14－13 西武文理
春日部工 14－6 西武文理
○C組
朝霞西 17－14 庄和
朝霞西 13－8 川越南
庄和 15－6 川越南
○D組
富士見 11－9 小松原
富士見 17－10 和光
小松原 14－10 和光
○E組
埼玉栄 18－6 上尾南
埼玉栄 21－4 上尾沼南
上尾南 12－10 上尾沼南
○F組
春日部共栄 10－9 城北埼玉
春日部共栄 22－4 秩父
城北埼玉 24－9 秩父
○G組
春日部 11－8 羽生一
春日部 25－2 草加
羽生一 13－9 草加
○H組
朝霞 15－7 越谷南
朝霞 12－7 浦和工
越谷南 17－7 浦和工
○I組
上尾東 16－10 埼玉第一
上尾東 9－9 所沢北
埼玉第一 5－4 所沢北
○J組
岩槻 19－12 浦和西
岩槻 17－16 秩父農工
浦和 16－6 秩父農工
○K組
筑波大坂戸 16－12 伊奈学園
○L組
浦和市立 11－8 東農大三
浦和市立 13－8 久喜工
東農大三 4－2 久喜工

○M組

春日部東 13－10 西武台
春日部東 20－13 川口
西武台 17－7 川口

○N組

浦和学院 12－8 大宮南
浦和学院 35－3 宮代
大宮南 20－3 宮代

○O組

県立坂戸 31－7 八潮南
県立坂戸 30－11 所沢緑ケ丘
八潮南 19－10 所沢緑ケ丘

○P組

川口東 14－12 城西川越
川口青陵 12－11 川口東
城西川越 10－9 川口青陵

○Q組

川口北 20－14 大宮北
川口北 34－5 大井
大宮北 15－9 大井

○R組

三郷工技 9－8 浦和南
三郷工技 16－12 北本
浦和南 15－6 北本

○S組

戸田 16－8 志木

○T組

川口工 16－15 草加東
川口工 21－3 熊谷
草加東 23－2 熊谷

▼A決勝トーナメント（予選リーグ1位チームによる）1回戦

筑波大坂戸 10－8 狭山
浦和学院 20－11 埼玉栄
春日部 15－10 川口東
戸田 14－14 岩槻
2PTC1

▼同2回戦

浦和市立 14－9 朝霞西
春日部東 20－9 富士見
川口北 10－8 朝霞
上尾東 9－9 三郷工技
3PTC2
浦和実 31－7 筑波大坂戸
浦和学院 22－15 県立坂戸
春日部 6－6 春日部共栄
1PTC0
戸田 12－8 川口工

▼同3回戦

浦和実 22－5 浦和市立
浦和学院 13－10 春日部東
川口北 15－10 春日部
上尾東 16－9 戸田

▼順位決定戦

春日部東 24－8 浦和市立
戸田 14－10 春日部

▼準決勝

浦和学院 10－8 浦和実
川口北 15－9 上尾東

※降雨のためここで打ち切り、決勝、3位決定戦、5位決定戦、7位決定戦は行なわず、順位は以下の通りとする。

①浦和学院、川口北
③浦和実、上尾東
⑤春日部東、戸田
⑦浦和市立、春日部

▼B決勝トーナメント（予選リーグ2位チームによる）1回戦

越谷南 24－6 八潮南
大宮北 14－12 浦和西
浦和南 13－4 上尾南
草加東 7－4 羽生一

▼同2回戦

春日部工 10－4 埼玉第一
庄和 19－16 川口青陵
志木 14－12 東農大三
西武台 14－10 城北埼玉
越谷南 9－4 越谷西
小松原 9－8 大宮北
伊奈学園 15－7 浦和南
大宮南 15－4 草加東

▼同3回戦

春日部工 14－13 越谷南
庄和 14－11 小松原
伊奈学園 15－5 志木
大宮南 10－9 西武台

▼準決勝

春日部工 16－10 庄和
大宮南 22－7 伊奈学園

※降雨のため打ち切り、決勝戦は行なわず順位は以下の通りとする。

①春日部工、大宮南
③庄和、伊奈学園

〈女子〉

▼予選リーグ

○a組

浦和実 10－9 上尾東
浦和実 31－4 狭山
上尾東 23－3 狭山

○b組

浦和学院 18－4 春日部女
浦和学院 18－2 春日部東
春日部女 11－9 春日部東

○c組

伊奈学園 9－5 大宮南
伊奈学園 15－7 川口東
大宮南 11－4 川口東

○d組

草加南 11－7 幸手商
草加南 13－7 上尾南
幸手商 8－4 上尾南

○e組

八潮 13－5 羽生一
八潮 18－2 浦和商
羽生一 5－4 浦和商

○f組

浦和南 12－3 浦和市立
浦和南 8－7 戸田
浦和市立 12－9 戸田

○g組

川口女 19－8 庄和
川口女 14－5 筑波大坂戸
庄和 23－13 筑波大坂戸

○h組

川口青陵 13－1 熊谷女
川口青陵 28－2 小松原女
熊谷女 9－6 小松原女

○i組

川口女 21－12 三郷北
川口女 25－1 志木
三郷北 23－13 志木

○j組

行田女 19－4 八潮南
行田女 25－0 北本
八潮南 13－5 北本

○k組

朝霞 10－3 秋草学園
朝霞 7－4 本庄女
秋草学園 14－5 本庄女

▼A決勝トーナメント（予選リーグ1位チームによる1回戦

川口女 17－4 浦和学院

行田女 23—4 草加南
八潮 16—7 朝霞

▼同2回戦

川口青陵 15—11 伊奈学園
川口女 14—12 浦和実
川口北 11—6 行田女
八潮 11—7 浦和南

▼順位決定戦

浦和実 15—8 伊奈学園
行田女 8—7 浦和南

▼準決勝

川口青陵 18—6 川口女
川口女 8—8 八潮
2PTC1

※降雨のためここで打ち切り、決勝、3位決定戦、5位決定戦、7位決定戦は行なわず、順位は以下の通りとする。

①川口青陵、川口北
③川口女、八潮
⑤浦和実、行田女
⑦伊奈学園、浦和南

▼B決勝トーナメント（予選リーグ2位のチームによる）1回戦

三郷北 13—9 羽生一
浦和市立 9—8 春日部女
庄和 22—5 秋草学園
筑波大坂戸 15—9 幸手商

▼同2回戦

上尾東 22—12 三郷北
八潮南 11—8 浦和市立
大宮南 13—5 筑波大坂戸

▼準決勝

上尾東 20—7 八潮南
大宮南 7—7 熊谷女
2PTC1

※降雨のため打ち切り、決勝戦は行なわず、順位は以下の通りとする。

①上尾東、大宮南
③八潮南、熊谷女

東京都中学校夏季大会

（日程、場所不明）

〈男子〉

▼1回戦

深川八 20—15 三沢
秋多 25—1 天沼
向島 25—16 東大和一
目黒四 26—17 立川二
瑞江三 10—7 日野二
開成 12—11 椚田
五日市 18—17 常盤
立川六 23—16 西宮
上祖師谷 25—12 小平四
国立三 23—10 第三大島
大久野 34—5 宮前
高井戸 21—11 本所
荏原四 23—14 中野中央
武蔵村山一 16—10 第二砂町
筑波大付駒場 23—21 小金井二
安方 20—13 上水
千歳 26—9 武蔵野一
浅川 31—17 小岩五
多摩 28—16 瀬田
四谷 24—17 深川五
扇 21—12 花小金井南
秋川東 34—7 足立十五
雪谷 22—9 国立二
三鷹一 17—15 松沢
大崎 13—12 府中二
深川三 26—14 狛江四
緑丘 22—14 和田

▼2回戦

桜木 40—12 深川八
秋多 17—16 向島
目黒四 33—10 瑞江三
五日市 26—21 開成
立川六 12—7 第二大島
国立三 20—18 上祖師谷
大久野 24—15 高井戸
国分寺一 28—6 荏原四
大島 27—19 武蔵村山一
筑波大付駒場 15—8 安方
浅川 21—12 千歳
多摩 22—14 四谷
秋川東 15—13 扇
雪谷 23—10 三鷹一
大崎 18—12 深川三
国立一 30—6 緑丘

▼3回戦

桜木 24—3 秋多
目黒四 18—10 五日市
国立三 18—9 立川六
国分寺一 13—8 大久野
大島 17—10 筑波大付駒場
多摩 22—13 浅川
秋川東 15—12 雪谷
国立一 20—10 大崎

▼準々決勝

桜木 27—8 目黒四
国分寺一 17—13 国立三
多摩 18—11 大島
国立一 24—6 秋川東

▼準決勝

桜木 16—7 国分寺一
国立一 18—7 多摩

▼3位決定戦

国分寺一 14—11 多摩

▼決勝

桜木 14—9 国立一

〈女子〉

▼1回戦

横山 18—17 立教女学院
三鷹一 8—3 富士見丘
辰己 11—7 大久野
国立三 16—11 瀬田
宮前 13—8 第二砂町
小金井南 16—1 中野中央
桐朋女 23—15 南砂
向島 12—8 雪谷
常盤 12—9 立川七
多摩 10—5 笹塚

▼2回戦

大島 40—7 横山
辰己 23—3 三鷹一
西宮 14—13 国立三
立川六 18—6 宮前
桜木 16—11 小金井南
桐朋女 12—3 向島
高井戸 13—12 常盤
日野二 16—15 多摩

▼3回戦

大島 26—10 辰己
立川六 17—5 西宮
桜木 12—11 桐朋女
日野二 22—6 高井戸

▼準決勝

大島 22—17 立川六
桜木 15—10 日野二

▼3位決定戦

日野二 14—8 立川六

▼決勝

大島 18—14 桜木

千葉県中学総体

（7月29〜31日／市川市民体育館）

〈男子〉

▼1回戦
柏南部 13−12 河原塚
見明川 14−12 花見川
花園 21−10 葛飾
流山南部 19−8 下総

▼2回戦
東邦 26−7 柏南部
野田一 21−17 見明川
花園 15−13 福栄
逆井 25−9 流山南部

▼準決勝
東邦 21−5 野田一
逆井 15−13 花園

▼決勝
東邦 10（6−3、2−5、1−1、1−0）9 逆井

〈女子〉

▼1回戦
市川二 34−3 聖短附
湖北台 18−9 上志津
逆井 24−14 大栄

▼2回戦
野田一 17−10 市川二
花園 17−9 葛飾
昭和 23−10 湖北台
逆井 12−10 こてはし台

▼準決勝
野田一 23−9 花園
昭和 23−12 逆井

▼決勝
昭和 13（6−7、7−2）9 野田一

東海

第23回東海実業団選手権

（7月5、12日／トヨタスポーツセンター、名古屋市体育館）

〈男子〉

▼1回戦
日本電装 41−11 パイロットインキ
新日鉄名古屋 36−12 日本硝子

▼2回戦
日本電装 21−17 本田技研爽風会
豊田合成 41−14 三洋電機
日本耐酸壜 29−18 アイシン精機
豊田自動織機 20−14 新日鉄名古屋

▼3回戦
大同特殊鋼 32−9 日本電装
トヨタ車体 28−17 豊田合成
トヨタ自動車 34−20 日本耐酸壜
本田技研工業 34−9 豊田自動織機

▼準決勝
大同特殊鋼 18−9 トヨタ車体
本田技研工業 31−15 トヨタ自動車

▼3位決定戦
トヨタ自動車 21−19 トヨタ車体

▼決勝
本田技研工業 17（7−9、10−6）15 大同特殊鋼

※本田技研工業は2年ぶり6回目の優勝。

〈女子〉

▼決勝
ブラザー工業 23（11−12、12−11）23 ジャスコ
ブラザー工業 19（11−9、8−10）19 ジャスコ

※大会規定により両チーム優勝。ブラザー工業は2年連続5回目、ジャスコは2年ぶり10回目。

第40回三重県中学校大会

（7月29、30日／四日市中央体育館）

〈男子〉

▼1回戦
菰野 31−8 東員第二

▼2回戦
西笹川 26−16 菰野
四日市南 20−10 明和
亀山 23−14 笹川
西朝明 30−11 白子

▼準決勝
西笹川 45−9 四日市南
西朝明 18−15 亀山

▼決勝
西笹川 30（12−7、18−6）13 西朝明

〈女子〉

▼1回戦
笹川 26−7 三雲
西朝明 23−4 赤目
菰野 18−7 東員第二
明和 14−6 阿山

▼2回戦
西笹川 31−6 笹川
西朝明 17−3 大安
菰野 23−8 桔梗が丘
亀山 23−8 明和

▼準決勝
西笹川 18−6 西朝明
亀山 22−9 菰野

▼決勝
西笹川 16（8−3、8−2）5 亀山

岐阜県高校総体

（日程、場所不明）

〈男子〉

▼1回戦
岐阜東 18−13 中津
岐阜南 15−6 池田
大垣農 18−16 大垣北
斐太 26−13 岐阜工

▼2回戦
県岐阜商 22−10 中津
大垣工 27−8 郡上
岐阜西工 20−7 高山工
岐阜南 19−7 可児
大垣農 16−13 岐山
加納 20−12 美濃加茂
羽島北 14−12 中京商
市岐阜商 21−7 斐太

▼3回戦
県岐阜商 22−13 大垣工
岐阜西工 22−13 岐阜南
大垣農 14−12 加納
市岐阜商 25−8 羽島工

▼準決勝
県岐阜商 26−18 岐阜西工
市岐阜商 23−10 大垣農

▼決勝
県岐阜商 17（9−8、8−7）15 市岐阜商

〈女子〉

▼1回戦
県岐阜商 19－4 大垣東
斐太 26－6 大垣農
本巣 21－2 各務原東
富田女 23－8 羽島
益田 29－9 可児
高山西 19－8 大垣南
養老女商 24－5 瑞浪
高山 27－2 各務原
▼2回戦
県岐阜商 11－10 斐太
本巣 21－6 富田女
高山西 16－11 益田
高山 14－8 養老女商
▼準決勝
本巣 11－10 県岐阜商
高山 25－15 高山西
▼決勝
本巣 14（7－2 7－6）8 高山

北信越

第25回富山県中学校選手権

（7月25、26日／氷見市総合体育館ほか）

〈男子〉
▼1回戦
八代 19－6 興南
八尾 17－9 福岡
西條 19－12 般若
呉羽 23－10 南星
▼準決勝
八代 22－6 八尾
呉明 14－13 西條
▼決勝
八代 13（7－3 6－5）8 呉羽
※八代は16年ぶり2回目の優勝

〈女子〉
▼1回戦
小杉 25－7 呉羽
出町 15－3 堀川
氷南 26－11 庄西
新庄 15－13 西條
▼準決勝
小杉 21－8 出町
氷南 31－9 新庄
▼決勝
小杉 14（3－6 7－4 3－1 1－1）12 氷南
※小杉は7年連続7回目の優勝。

第40回富山県民体育大会

（8月8、9日／大門中学）

〈一般男子〉
▼1回戦
八尾ク 21－12 砺波ク
射水ク 44－24 全高岡
想球会 26－14 小矢部市
▼準決勝
氷見ク 35－16 八尾ク
想球会 28－24 射水ク
▼決勝
氷見ク 29（13－10 16－13）23 想球会
※氷見クは8年連続28回目の優勝

〈一般女子〉
▼1回戦
有磯OG 棄権 砺波ク
桜球会 22－6 想球会
▼決勝
有磯OG 12（5－3 7－5）8 桜球会
※有磯OGは2年連続13回目の優勝。

〈少年男子〉
▼1回戦
高岡向陵高 27－12 高岡商
氷見高 24－10 呉羽高
▼決勝
高岡向陵高 22（10－14 12－7）21 氷見高

〈少年女子〉
▼1回戦
有磯高 棄権 呉羽高
高岡女高 24－8 富山女高
▼決勝
有磯高 26（14－11 12－9）20 高岡女高

〈中学男子〉
▼1回戦
西條中 21－16 福岡中
呉羽中 24－10 小杉南中
上滝中 16－15 般若中
八尾中 22－19 南星中
▼準決勝
西條中 16－15 呉羽中
八尾中 28－7 上滝中
▼決勝
西條中 20（13－14 7－5）19 八尾中
※西條中は初優勝。

〈中学女子〉
▼1回戦
小杉中 13－8 杉原中
氷見南部中 16－11 呉羽中
▼準決勝
小杉中 12－10 国吉中
氷見南部中 18－11 庄西中
▼決勝
氷見南部中 15（9－4 6－2）6 小杉中
※氷見南部中は初優勝。

四国

第27回高松市中学総体

（7月21、22日／光洋中学）

〈男子〉
▼1回戦
勝賀 14－9 桜町
▼2回戦
古高松 23－6 勝賀
山田 21－8 玉藻
木太 29－10 香東
光洋 24－11 紫雲
▼準決勝
古高松 22－21 山田
木太 24－10 光洋
▼決勝
木太 29（15－9 14－8）17 古高松

〈女子〉
▼1回戦
山田 36－4 屋島
光洋 7－5 古高松
木太 15－10 桜町
香東 11－7 紫雲
▼準決勝
山田 17－1 光洋
木太 6－5 香東
▼決勝
山田 21（11－4 10－4）8 木太

九州

長崎県中学総体

（7月26日／長崎工業高校）

〈男子〉
▼1回戦
相浦 14－11 戸町
梅香崎 15－12 大野
▼準決勝
時津 23－10 相浦
大瀬戸 21－8 梅香崎
▼決勝
大瀬戸 15（6－5 5－6 2－0 2－1）12 時津

〈女子〉
▼1回戦
大野 9－7 江平
▼準決勝
大野 7－4 大瀬戸
柚木 16－8 桜馬場
▼決勝
柚木 18（8－5 10－4）9 大野

「日本ハンドボール史」購入の申し込みをお早めに

みなさますでに御承知のように、日本ハンドボール協会創立50周年を記念しての「日本ハンドボール史」が、今春無事完成致しました。

この冊子は、右の内容を御覧いただいてもわかりますように、日本ハンドボール界の50年の歩みを余す所なく御紹介するとともに、これまで埋もれていた様々なエピソードを紹介し、記録としても、読物としても大変興味深いものとなっております。

これまで日本ハンドボール界のために尽くしてこられた方々にも、また、今後日本ハンドボール界を背負っていただく方々にも、是非御一読いただきたいと思います。

〔「日本ハンドボール史」の主な内容〕

〔体裁〕Ｂ５判　880頁　ケース入り

〔主な内容〕

- 日本ハンドボール50年の歩み
- 47都道府県協会史
- 全国連盟・団体の歩み
- ハンドボール史を彩るエピソード
- 全国大会の記録をすべて
- 海外の主要な大会（オリンピック、世界選手権、アジア大会など）の記録

〔定価〕　7000円

※次第に残り部数が少なくなってきておりますので、御希望の方は、なるべく早めに下記宛お申し込み下さい。

〒150東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育館内
㈶日本ハンドボール協会
「日本ハンドボール史」係
TEL　03-481-2361

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二六八号
昭和四十年六月[illegible]第三種郵便物認可
昭和六十二年十月二十五日 印刷
昭和六十二年十一月一日 発行
東京都渋[illegible]南一－一－一
電話 代表[illegible]481)二三六一
振替 東京 六－五八三四八番
編集兼発行人 安藤純光
定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)